

B ウキガヤ イネ科

2009	
2017	B
2023	B

Glyceria depauperata Ohwi var. *infirm*a (Ohwi) Ohwi

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 30～50cm。葉は線形で、葉舌は 2～5mm。小穂は 15mm～40mm、小花は 7～16 個。ヒメウキガヤより小花が長く、4～5mm。花期は、5 月～7 月。風媒で、重力散布。水辺に生育し、時に水面に浮く。[HH]

【分布】 本北海道・本州。千島（南部）、中国（北部）。

【県内の状況】 佐倉市などに分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 762 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 54

【写真】 1989.7.23 佐倉市 標本: CBM BS-350581

(天野誠)



B アズマガヤ イネ科

2009	C
2017	C
2023	B

Hystrix longe-aristata (Hack.) Honda

【種の特性】 太い根茎のある多年生草本。花序の中軸に斜上する軟毛が密。稈の節部にも下向きの軟毛がある。葉身は基部近くでよじれ、上面は下を向き白緑色。下面は上を向き緑色で光沢がある。苞穎は針状で宿存性で残る。護穎は長さ 9～13mm でやや革質、先端に 10～22mm の芒がつく。花期は 5～7 月。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮北部。

【県内の状況】 鋸南町、神崎町、香取市、富津市、南房総市など、産地の数は少ないが、群生するところもある。

【保護対策】 日当たりの良い林縁などでは繁殖が盛んであり、結実も良好なので、産地の保護を図れば、絶滅は免れる。

【文献】 伊藤至 1964 鋸山のアズマガヤ. 千葉県生物誌 14(2): 49 / 千植誌 2003: 757, 749

【写真】 2012.5.3 市原市 標本: CBM BS-327866

(木村陽子)



B ミノボロ イネ科

2009	C
2017	C
2023	B

Koeleria pyramidata (Lam.) P.Beauv.

【種の特性】多年草。草原に生える。花軸と稈の上部に軟毛が密。円錐花序は枝が短く扁平な穂状花序にみえ、長さ5～15cm。淡緑色。千葉県産の小穂は長さ4mm、3小花からなり、強く扁平で、第1苞穎は3mm、第2苞穎は4mm、護穎は2.5～4mm。ミノボロは変異の大きい種で、基本種は小穂が7～10mmと大きく、日本在来品（サトミノボロ）は4mm程度であるので、学名の再検討が必要かもしれない。千葉県産は、今のところ帰化系統はみられない。

【分布】北海道・本州・四国・九州。ヨーロッパ、アジア、北米、アフリカ。

【県内の状況】県北部。古い記録はあるが、近年では1995年6月12日に習志野市で行われた調査での標本と1996年君津市、2002年の記録があるのみである。

【保護対策】かつてのカヤ刈場、ススキ草地の復活、保全。

【文献】千植誌 2003：729, 723

【写真】1969.6.22 岐阜県 標本：CBM BS-208399

(木村陽子)



B ヌマガヤ イネ科

2009	B
2017	B
2023	B

Molinia japonica Hack.

【種の特性】多年生草本。明るい湿地や池の畔に生育する。葉は単葉で互生。風媒で風散布。40cmにもなる大きな開いた花序を持つが、果期になると中軸によりそう。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、南千島、朝鮮、中国。

【県内の状況】近年、野田市、柏市、白井市、船橋市、茂原市などで、生育が確認されている。

【保護対策】生育地の湿地が無くならないように保護し、乾燥化を防ぐよう、地下水位を保つことが望ましい。

【文献】千植誌 2003：743, 735

【写真】2005.9.28 柏市 木村陽子

(木村陽子)



B アワガエリ イネ科

2009	
2017	X
2023	B

Phleum paniculatum Huds.

【種の特性】 中型の一年生草本。茎は立ち上がり、1つの穂を付ける。穂はオオアワガエリより短くて太い。風媒で、風散布。花期は、5月～6月。草原に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州、中国、ロシア、地中海沿岸。

【県内の状況】 館山市で採集されている。

【保護対策】 生育地の草原を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003: 742

【写真】 1975.5.15 愛知県 標本：
CBM BS-210440

(天野誠)



B キボウシノ イネ科

2009	
2017	C
2023	B

Pleioblastus kodzumae Makino

【種の特性】 中型の竹笹類。高さ1～2m。枝を分枝する。稈鞘は無毛。葉鞘も同様。葉身は狭披針形。葉の上面は短毛が密生し、裏面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。海岸付近の林縁に生育する。[M]

【分布】 本州。

【県内の状況】 千葉県各地に散在する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 474 / 日本タケ科植物図鑑 1996 173 / 千植誌 2003:808

【写真】 1937.6 鴨川市 標本：CBM BS-
94066

(天野誠)



B ハマヒエガエリ イネ科

2009	B
2017	B
2023	B

Polypogon monspeliensis (L.) Desf.

【種の特性】一年生草本。海岸に近い水湿地や河川敷に生育。稈は束生し、高さ30～80cm。葉は白緑色、葉舌は白色膜質で3～8mmあり高い。円錐花序は小穂を密生し花時はやや枝を開くが、その前後は直立する。小穂は2mm、苞穎は同長でへりに長毛があり、先端が2裂しその間から直立した芒を出し、苞穎の2～3倍の長さとなる。護穎に短い芒がある。花期は5～7月。

【分布】本州・四国・九州・琉球。ユーラシア、北アフリカの暖帯、温帯。

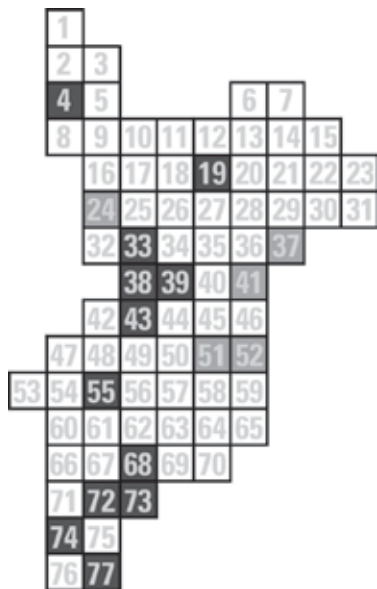
【県内の状況】船橋市、匝瑳市、市原市などで記録されている。

【保護対策】生育環境である海岸に近い水湿地や河川敷の保全。

【文献】千植誌 2003：741, 734

【写真】1959.5.31 山武市 標本：CBM BS-9929

(木村陽子)



B ヒシュウザサ イネ科

2009	
2017	C
2023	B

Sasaella hidaensis (Makino) Makino

【種の特性】中型の竹笹類。茎は、1から2m。1節より普通1本の枝が出る。稈鞘には、逆向の細毛が密生する。葉鞘は、無毛。葉身は、披針形、上面は無毛で、下面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。林縁に生育する。[N]

【分布】本州、四国、九州。

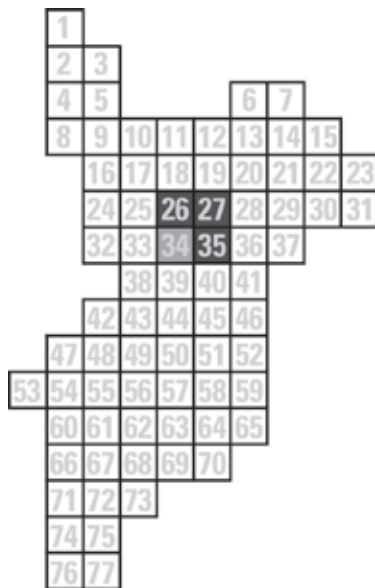
【県内の状況】主に佐倉市に分布している。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】日本タケ科植物図鑑 1996 263 / 千植誌 2003 807

【写真】1996.10.10 佐倉市 標本：CBM BS-124916

(天野誠)



B ヒゲシバ イネ科

2009	A
2017	A
2023	B

Sporobolus japonicus (Steud.) Maxim. ex Rendle

【種の特長】日当たりの良い原野や丘陵地に生える一年生草本。稈はまばらに枝を分け、高さ10～25cm。葉身のへりに長毛がある。小穂は隙間なく並び穂状花序にみえ、1小花からなり長さ2～2.2mm、紫赤褐色で光沢があり半透明。花期は8～10月。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では松戸市（1928-1931年）や成田市、長生村、茂原市に記録があるが、最近の報告はなく絶滅が懸念されていたところ、印西市の造成後の草地でウシクサと混生している本種が発見された（2001）。2008年10月には、印西市の造成地で確認された。土地を攪乱すると一斉に発芽する植物のようだ。

【保護対策】裸地的な環境に生育するので、種を存続させるためには、時々スキ草地などを掘り起こし、遷移の進行を止めると良い。

【文献】本田正次 1933 松戸附近植物目録 千葉高等園藝学校學術報告第二号：61-92 / 新千植誌 1975 / 千植誌 2003：740,747

【写真】2008 印西市
木村陽子
(木村陽子)



B ナガミノオニシバ イネ科

2009	C
2017	C
2023	B

Zoysia sinica Hance var. *nipponica* Ohwi

【種の特長】多年生草本。海岸の風当たりの強い砂浜に生育する。風媒で水散布。葉先が硬化する。オニシバより全体細く、花序は葉鞘より抜け出る。花期は6～8月だが、千葉県南端部では、12月にも咲くことがある。海辺の塩湿地に生育する。ナガミノオニシバ群目。[HH]

【分布】北海道（西南部）・本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】九十九里から東京湾までの海岸に生育する。

【保護対策】開発により残り少なくなった自然海岸を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：761,752

【写真】2018.6.24 館山市 標本：CBM BS-412795

(木村陽子)



B オオミクリ ミクリ科

2009	A
2017	B
2023	B

Sparganium erectum L. var. *macrocarpum* (Makino) H.Hara

【種の特長】多年生草本。ミクリに似るが果実は大小があり、大型のものは上部はほぼ平坦となる。牧野富太郎が市川市で採集した標本により記載した。

【分布】本州。朝鮮、中国。ミクリ (var. *erectum*) と混同され分布の詳細は不明である。

【県内の状況】成田市、横芝光町、茂原市、長生村などで確認され標本が得られている。詳細な調査によりさらに産地は増えると思われる。果実がミクリよりも大型になる点ではカドハリミクリ var. *coreanum* H.Hara にも似るが、カドハリミクリの果実上部は平坦にならない。ミクリ、オオミクリ、カドハリミクリの県内記録は混同している可能性があり、再検討が必要である。

【保護対策】生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：814,801 / 千植写真集 2005：359

【写真】

1995.7.29 成田市
谷城勝弘 標本
(谷城勝弘)



B ヤマエンゴサク ヤブケマン科

2009	B
2017	B
2023	B

Corydalis lineariloba Siebold & Zucc.

【種の特長】小形の多年生草本。地下の塊茎から高さ 10～20cm の地上茎を 1 本伸ばし、3 出複葉の葉を 2 枚つける。花は 4～5 月。青紫色で、長さ 15～25mm。虫媒で自散布。低地遺存ブナ帯要素。丘陵の北斜面下部の湿った林に群れて生える。ケヤキ林の指標種。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】千葉県北部に多く分布し。コクサギーケヤキ群集。古いスギの植林地周辺にも多い。

【保護対策】カタクリ、キツネノカミソリ、ニリンソウなどと共存し、丘陵の北斜面下部の湿った林に群れて生える。斜面下部の湿潤な環境をふくめた斜面緑地の総合的保全を望まれる。

【文献】千植誌 2003：230, 225

【写真】2005.4.16

成田市 谷城勝弘
(大場達之／天野誠)



B フクジュソウ キンポウゲ科

2009	A
2017	A
2023	B

Adonis ramosa Franch.

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。しばしばカタクリと同一箇所に見られるが、カタクリよりも斜面上部のやや乾いたところに見られる。日本のフクジュソウは、萼片が花弁より長いイチゲフクジュソウ *Adonis amurensis* Regelet Radde とフクジュソウ *A. ramosa* Franch の2種があり、前者は北方あるいは日本海側の多雪地に多く、後者は太平洋側に多い傾向がある。千葉県のフクジュソウは近県のものとともに全体に小型で開花時期が遅く、フクジュソウの中の別の変種を構成する可能性がある。北向きの夏緑林の林床に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

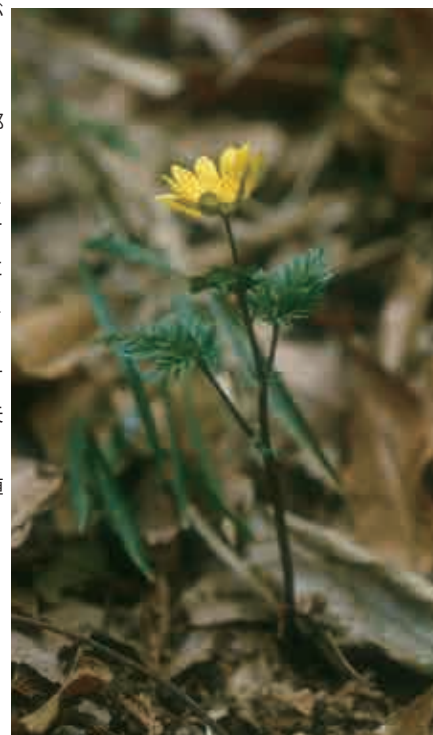
【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】千葉市に見られたものが有料道路建設で消滅したことが知られているが、県北部にはまだ自生地が残っている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。フクジュソウは園芸植物として出回っているが、千葉県自生のは前述のように、形態的に別の分類群として区別できるもので、従来の園芸品との識別は容易である。

【文献】岩瀬徹 1982 フクジュソウの自生地を確認する。千葉生物誌 31(1-2): 27-28 / 谷城勝弘・村田威夫 1987 下総におけるフクジュソウ。千葉生物誌 36(2): 70-71 / 大場達之 1995 千葉県のフクジュソウ。千植誌資料 1: 3-4 / 千植誌 2003: 197, 205

【写真】1993.3.30 成田市 谷城勝弘
(大場達之／谷城勝弘 追補)



B アズマイチゲ キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Anemone raddeana Regel

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で重力散布。早春3～4月に開花し、夏までには枯死するスプリング・エフェメラルである。主としてブナ帯の湿った夏緑林の下に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】八街市、佐倉市、成田市、千葉市、君津市から採集されている。近年は本種の生育適地となる林縁の刈り取りが行われず、大型草本の繁茂によって消滅した所が増えている。

【保護対策】生育地には個体数は多いが、観賞用の採取によって一挙に絶滅する可能性がある。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975: 422 / 千植誌 2003: 188, 205

【写真】1989 成田市 谷城勝弘
(大場達之／谷城勝弘 追補)



B オオバショウマ キンボウゲ科

2009	
2017	A
2023	B

Cimicifuga japonica (Thunb.) Spreng. var. *macrophylla* (Koidz.) H.Hara

【種の特性】 大型の多年性草本。90 から 120cm に達する。太い根茎は水平に伸びる。茎は枝分かれしない。葉は 1 回 3 出複葉で、小葉は腎形で、不規則な鋸歯がある。花柄はほとんどない。花に萼片はすぐにおち、雄蕊が目立つ。心皮は 1 つまたは 2 つ。虫媒で、重力散布。花期は、8 月～9 月。山地の林縁または林内に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 君津市で 2002 年 5 月 16 日に採集された標本（CBM BS-269718）と君津市で 2009 年 10 月 16 日に採集された標本（CBM BS- 291319）と酒々井町で 1986 年 7 月 23 日に採集された標本（CBM BS-348609）がある。

【保護対策】 生育地の林床を保全する事が望ましい。

【文献】 千植誌 2003 186

【写真】 2009.10.11 君津市 CBM BS-291319



B カザグルマ キンボウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clematis patens C.Morren & Decne.

【種の特性】 夏緑藤本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で風散布。5～6 月に大きな白い花をつける。地域によって青い花を付けるものも知られているが千葉県産は白花だけである。北向きの斜面下部の湿った林の林縁に生える。トコロクス群目。[M]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 千葉市、船橋市、富里市、山武市、君津市などから記録がある。生育の適地となる林縁が放置されて藪となっている所が増えており、アズマネザサなどの大型植物が繁茂して既に絶滅したところが多い。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 千植誌 1975：423 / 木更津みちくさ会 1978 みちくさ 9 / 千植誌 2003：187, 195

【写真】 1998 千葉市 大場達之（大場達之／谷城勝弘 追補）



B トリガタハンショウヅル キンボウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clematis tosaensis Makino

【種の特性】夏緑藤本。葉は3出複葉で互生。花は狭鐘形、花糸は密に毛がある。虫媒で風散布。夏緑林の林縁に生える。ノイバラ群綱。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山、君津市、鹿野山、鋸山で記録されているが開花するような大きな個体は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：423 / 千植誌 2003：188, 196

【写真】1995.4.27 鋸山 大場達之

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B シロバナハンショウヅル キンボウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clematis williamsii A.Gray

【種の特性】夏緑藤本。葉は複3出複葉で互生。花は広鐘形、花糸はほとんど無毛。虫媒で風散布。夏緑林の林縁に生える。ノイバラ群綱。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】高宕山系で発見され、市原市、富津市、大多喜町、長柄町、鋸南町などから記録されているが、その一部はトリガタハンショウヅルの誤認の可能性がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】戸部博 1975 千葉県に於けるシロバナハンショウヅルの出現とその分類学

上の意味／新千植誌：233-237 / 千植誌 2003：188, 196

【写真】1985 奈良県 大場達之

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B セリバオウレン キンポウゲ科

2009	C
2017	C
2023	B

Coptis japonica (Thunb.) Makino var. *major* (Miq.) Satake

【種の特性】 林の湿った所に生える多年生草本。葉は2回3出複葉。

【分布】 本州（太平洋側）・四国。

【県内の状況】 県北部に少数の産地が知られている。標本は佐倉市（1997.3.8 CBM BS-118206）がある。佐倉市の生育地は古い栽培品に由来する逸出の可能性もある。

【保護対策】 林での過度の刈り取りに注意し、適正な環境を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：186, 194

【写真】 2022.4.17 香取市 谷城勝弘

（大場達之／谷城勝弘 追捕）



B ヒキノカサ キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Ranunculus extorris Hance

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は互生で単葉、掌状に分裂し、茎や葉に長い毛が多い。虫媒で重力または鳥散布。オギーヨシ群団。ハナムグラールオギ群集。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】 利根川水系と栗山川流域、作田川下流の湿地に生える。作田川下流では宅地造成に伴い、生育地は消滅した。栗山川中流の洪水敷には高密度に群生する地が連なる。

【保護対策】 河川洪水敷を、自然に保つことが必要である。ヨシ、オギなどの高茎草本の刈り取りと除去を定期的に行い、腐植の蓄積を防ぐことが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：198, 206

【写真】 1999.4.18

横芝光町 谷城勝弘

（大場達之／谷城勝弘 追捕）



B ノカラムツ キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Thalictrum simplex L. var. *brevipes* H.Hara

【種の特性】 中型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。小葉の基部はくさび形で茎に鋭い稜がある。虫媒で風散。オギーヨシ群団。ハナムグラーオギ群集。[H]

【分布】 本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 利根川流域の河原の湿った草原に生えるが少ない。野田市(1996.7.28 CBM BS-139476) の標本などがある。

【保護対策】 河原を自然状態に保つことが望ましい。生育地では定期的な刈り取りを実施し、大型草本の繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：199, 207

【写真】 2000 栃木県 大場達之
(大場達之／谷城勝弘 追補)



B ミヤマハハソ アワブキ科

2009	B
2017	B
2023	B

Meliosma tenuis Maxim.

【種の特性】 夏緑大低木～小高木。ブナ帯下部の夏緑林に生える。

細い枝に葉を互生し、倒卵形で薄く粗い鋸歯がある。花は5～6月。淡黄色の花弁は5個であるが2個は短縮して3弁に見える。果実はゆがんだ球形で黒紫色に熟す。[MM]

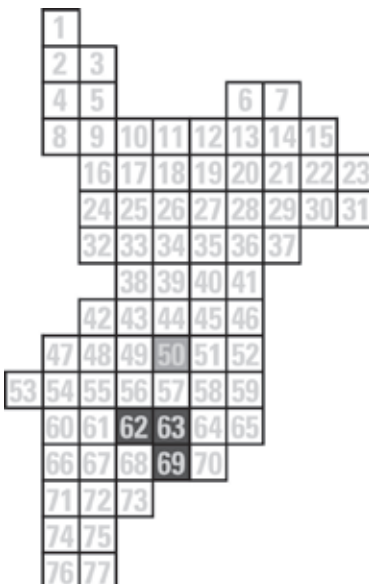
【分布】 本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】 房総丘陵の沢沿いの斜面に、やや稀に見られる。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：348, 340

【写真】 2002.9.19 君津市
大場達之
(大場達之／天野誠)



B カツラ カツラ科

2009	
2017	A
2023	B

Cercidiphyllum japonicum Siebold & Zucc.

【種の特性】大木になる落葉性木本。高さ 30m に達する。よく萌芽し株立ちになる。葉は長枝では対生する。葉身は円心形で、波状の鋸歯がある。雌雄異株。花に萼や花弁はない。風媒で、重力散布。花期は、3月～5月。山地の谷沿いに生育する。サウグルミ群団。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州

【県内の状況】君津市で 2011 年 7 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-312349) がある。大木だが、1 本しか確認できなかった。君津市で 1976 年 3 月 25 日に採集された若い果実の標本 (CBM BS-383541) と君津市で 1975 年 5 月 29 日に採集された標本 (CBM BS-333542) がある。東京大学千葉演習林の標本庫には、君津市で 1932 年 6 月 27 日に採集された標本、同市で 1949 年 9 月に採集された標本が収蔵されている。目視記録として、君津市がある。他に富津市で、1999 年 10 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-

372455) と鴨川市で 1975 年 8 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-383540) がある。千葉県北部で採集されたものは、栽培か逸出の可能性がある。遺存的な分布をしており、雌雄異株で、それぞれの産地の個体数が少ないので、次世代の維持が困難であると考えられる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:380 / 新千植誌 1975:424 / 千植誌 2003:185 / 演習林 (東大) 2017:12

【写真】1999.10.15 富津市 標本: CBM BS-372455

(天野誠)



B ミツバベンケイソウ ベンケイソウ科

2009	A
2017	B
2023	B

Hylotelephium verticillatum (L.) H.Ohba

【種の特性】高さ 20 ～ 30 cm の夏緑の多年生草本。山地の湿った傾斜地に生える。根は前年の茎の下部から出る不定根で、太い。茎は斜上し、多肉で、無毛。葉は 3 輪生、まれに対生、長楕円形で、多肉、長さ約 5 cm、波状鋸歯があり、蒼緑色。花は集散花序に 10 ～ 20 個つく。花は 5 数性、萼は披針形、花弁は狭楕円形で、黄緑色。雄しべは 10 本で、葯は黄色。離生心皮は 5 つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。葉は単葉で輪生。虫媒で重力散布。[H]

【分布】九州・四国・本州・北海道。

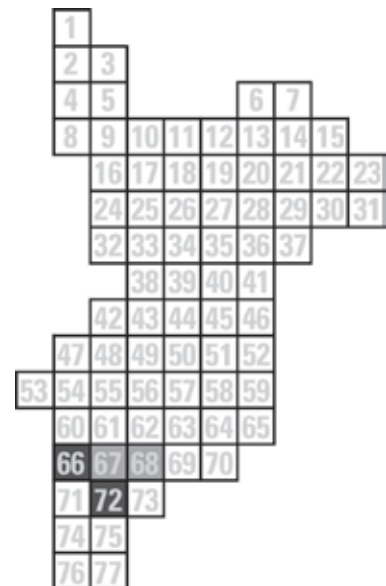
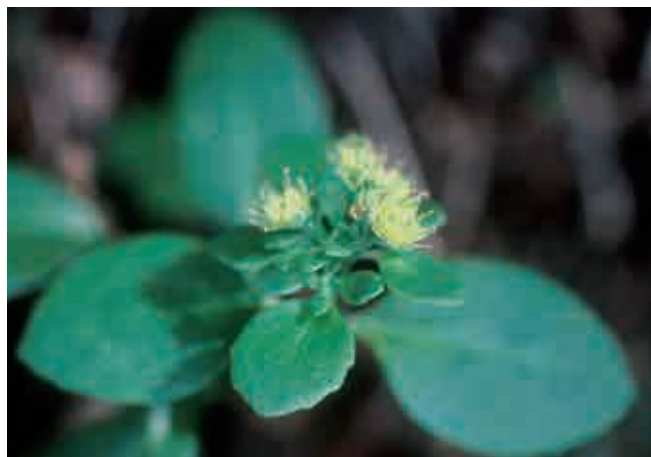
【県内の状況】以前から南房総市の富山で記録されていたが、鴨川市や南房総市にも新たな産地が発見された。千葉県の分布は遺存的であり、生育地も小さいので保護が必要である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 253, 262

【写真】1995. 南房総市 平田和弘

(天野誠)



B アズマツメクサ ベンケイソウ科

Tillaea aquatica L.

2009	A
2017	A
2023	B

【種の特性】 高さ2～5 cm、弱々しい無毛の一年生草本。湿地や水田などに生える。根はひげ根で、茎から不定根を出す。茎は多肉で、下部で枝分かれする。葉は線形で全縁、鋭頭、対生する。ほぼ無柄。花は夏に咲く。花は上部の葉腋に単生する。花柄はない。花は4数性で、萼片は卵形で、長さ約1 mm。花弁は、狭卵形で、白色で、長さ約1.5 mm。雄しべは、4本のことが多い。離生心皮は。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で水散布。ヒメミズニラーヒメコウガイゼキショウ群綱。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 野田市、成田市、長生村などで記録されている。近年は市川市で確認されたが、非常に少ない。水位が季節ごとに変動する非常に不安定な環境を好み、かつては水田など浅い水辺に生えていたが、絶滅が心配される。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 土屋守 1999 野田市の植物 (1) 千葉生物誌 50(1):17. / 千植誌 2003 : 244,252

【写真】 2008.6.26

市川市 木村陽子
(天野誠)



B ヤブサンザシ スグリ科

Ribes fasciculatum Siebold & Zucc.

2009	B
2017	B
2023	B

【種の特性】 高さ約1 mに達する夏緑の低木。夏緑林あるいはその林縁に生える。雌雄異株。数本の有髄の幹を叢生する。枝は灰褐色で、樹皮は細かく裂ける。短枝があり、刺はない。葉は互生、浅く3裂または5裂し、鋭頭。基部は心形から截形で、有柄、葉身は長さ2～3 cm、油点はない。枝先に散形花序を付ける。花は5数性。萼は車型、径3 mm。花弁は、長楕円形で全縁、黄緑色で、長さ約2.5 mm、外側に反る。雄しべは萼筒の先に癒合し、花糸はきわめて短い。雌しべは2心皮で、合生。果実は液果で、赤熟する。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 1994年に八千代市と船橋市で発見された。2005年には千葉市でも発見された。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 大野景德 1994 八千代市植物目録 : 46. 八千代市歴史民俗資料館 / 大場達之 1999 千葉県のヤブサンザシ. 千葉県植物誌資料 14. / 千植誌 2003 : 256, 265

【写真】 1997. 八千代市 大場達之

(天野誠)



B フサモ アリノトウグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Myriophyllum verticillatum L.

【種の特長】沈水性の多年生草本。葉は羽状複葉で輪生。水上葉は水中葉より小さいが、多少とも羽裂する。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】県北部に記録が点在するが、ホザキノフサモの誤認の可能性もある。ホザキノフサモに比べて生育量はごく少ない。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：405,400

【写真】1999.8.4 富里市 標本：CBM BS-306276

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B オニツルウメモドキ ニシキギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Celastrus orbiculatus Thunb. var. *strigillosus* (Nakai) Makino

【種の特長】夏緑藤本。ツルウメモドキに似ているが、葉の下面の脈上にうね状の突起がある。

【分布】本州・四国・九州。

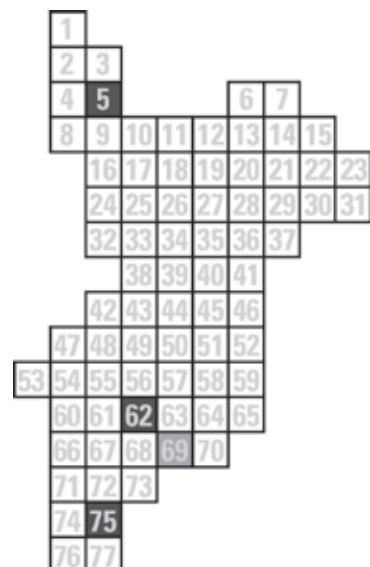
【県内の状況】清澄山と野田市から記録されている。近似した種類があるので詳細な再調査が必要である。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：353, 359

【写真】2011.10.12 君津市 標本：CBM BS-312293

(大場達之／天野誠)



B オオツルウメモドキ ニシキギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Celastrus stephanotifolius (Makino) Makino

【種の特性】夏緑藤本。ツルウメモドキに似ているが、葉の下面の脈上に柔毛がある。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の溪谷に見られるが稀である。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 359

【写真】2012.11.20 鴨川市 標本:CBM BS-330877

(大場達之／天野誠)



B サワダツ ニシキギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Euonymus melanantus Franch. & Sav.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N] ブナ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の湿った谷から記録されている。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 359

【写真】2010.6.9 鴨川市 標本:CBM BS-298086

(大場達之／天野誠)



B ウメバチソウ ニシキギ科

2009	B
2017	B
2023	B

Parnassia palustris L.

【種の特性】 高さ 10 ～ 30 cm の夏緑の小型多年生草本。日当たりのよい湿地や水がしみ出る湿った斜面に生える。根出葉と花茎を叢生する。花茎には無柄の 1 葉をつける。根出葉は心形で、円頭、長い柄がある。葉身は長さ 10 ～ 25 mm。花は頂生する。花は 5 数性で、萼片は楕円形で鋭頭、長さ 4 ～ 7 mm、緑色。花弁は白色で卵形、長さ 7 ～ 11 mm。雄しべは 5 本。仮雄蕊も 5 本で、細裂して先に黄色い腺球をつける。雌しべは 5 心皮で合生、果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。ススキ群網。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】 主として南総の丘陵と九十九里平野の湿地に点在する。

【保護対策】 鑑賞目的の採取をやめる。

【文献】 千植誌 2003 : 258,263

【写真】 2004.10.24 山武市 能勢正代
(大場達之/天野誠 追補)



B イワタイゲキ トウダイグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Euphorbia jolkinii Boiss.

【種の特性】 大形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。岩礫あるいは礫浜の打ち上げゴミ上に生える。ツワブキ群団。[H]

【分布】 本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾。

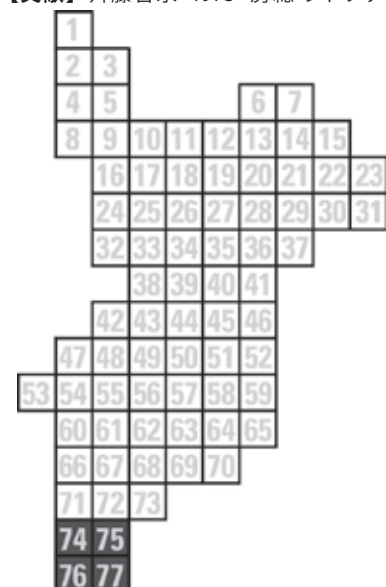
【県内の状況】 館山市・南房総市などに見られ、安定的な環境では大きな群落を形成している。

【保護対策】 海岸において稀少植物の集まる部分は立ち入りを制限する必要があると考えられる。

【文献】 齊藤吉永 1975 房総のイワタイゲキ. 千生誌 24(12) : 61. 千植誌 2003 : 328,333

【写真】 1998 館山市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B センダイタイゲキ トウダイグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Euphorbia sendaica Makino

【種の特性】中形の多年生草本。地中に横走る根茎がある。虫媒で重力散布。葉は単葉で互生。夏緑林の肥沃な土壤に群れて生える。[H]

【分布】本州（関東以北）。

【県内の状況】松戸市から採集記録があるが、これは絶滅している。また八千代市でも記録されたが自生地は開発によって失われ、栽植品だけが残っている。現在確実な自生地は富里市だけである。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】小松崎一雄 1951 千葉県東葛地区の植生に関する注目すべき事項。



就中センダイタイゲキの分布に関して、千植誌基礎資料 1(1)：51-53 / 小松崎一雄 1965 センダイタイゲキとフラサバソウ。千生誌 12(2)：40. 千植誌 2003：329,333

【写真】1998 富里市 大場達之（大場達之／天野誠）



B ヒメオトギリ オトギリソウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Hypericum japonicum Thumb.

【種の特性】一年生草本。茎はほぼ直立し、あまり分岐しない。葉は倒卵形で長さ7～13mm、基部は少し茎を抱く。コケオトギリに似るが雄ずいは10～20本で離生する（コケオトギリは5～8本）。湿地性。

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、東南アジア。

【県内の状況】県内に複数の記録があるが少ない。長生村の湿地に多産したが、近年の宅地造成に伴う土地改変で生育地の多くが失われた。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：218,222



【写真】1985 山武市 大場達之

（谷城勝弘）



B アゼオトギリ オトギリソウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Hypericum oliganthum Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。茎は硬く、中部からよく分岐する。葉の基部はやや茎を抱き長楕円形で1.5～2.5cm、縁は黒点が連続し、内側は明点がある。花弁は黒点と明点がある。果実は丸みがあり、近縁種に比べて大型である。湿地性。[H]

【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。朝鮮。

【県内の状況】酒々井町で2～3個体が確認された（1998.9.19 CBM BS-172092）が、消滅した。2005年に横芝光町で確認された。同所は除草剤を使用せず定期的な刈り取り管理が継続されている。県内記録は多いが、おおむね他種の誤認である。日本植物図譜の1204図（コオトギリ）は市川産の標本によって描かれたものであるが、これはアゼオトギリである。なお、寺崎日本植物図譜 p253 のアゼオトギリの図（971）は日本植物図譜のコオトギリに用いられた図と同じものである。



【保護対策】地権者に定期的な刈り取りを継続するよう連絡し、必要に応じて移植を行って管理育成することが望ましい。

【文献】寺崎留吉（1933）：日本植物図譜 1204. / 奥山春季編 1977 寺崎日本植物図譜：253 / 千植誌 2003：218,222

【写真】2008.8.10 / 2007.9.17

横芝光町 谷城勝弘
（大場達之／谷城勝弘 追補）



B オオネコヤナギ ヤナギ科

2009	
2017	C
2023	B

Salix furuta Seemen

【種の特性】落葉低木。高さ、1～2m。材の表面に著しい隆起線がある。葉は長楕円形で、長さ10～21cm。葉の表面に白い伏綿毛がある。雄花は、雄しべが2本、花糸は無毛で、最基部が合着する。雌花は、白い絹毛がある。花期は、3月～5月。風媒で風散布。丘陵地に生育する。[N～M]

【分布】本州

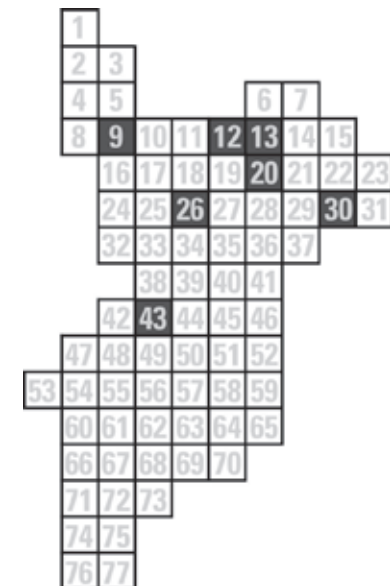
【県内の状況】主に北総東部に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:93,104 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016 198

【写真】1999.11.7 成田市 標本：CBM BS-164097

（天野誠）



B キヌヤナギ ヤナギ科

2009	
2017	C
2023	B

Salix kinuyanagi Kimura

【種の特性】落葉高木。高さ、3～6m。葉は線状狭卵形で、長さ10～20cm。全縁またはわずかに鋸歯がある。葉の裏面に絹毛が密生する。雄花は、雄しべが2本、花糸は無毛で、離生する。花期は、3月～5月。風媒で風散布。
河岸に生育する。[M]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】主に北総と安房の河岸に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 394 / 新千植誌 1975:440 / 千植誌 2003:92 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:199

【写真】1995.5.19 芝山町 標本: CBM BS-120415

(天野誠)



B コゴメヤナギ ヤナギ科

2009	
2017	C
2023	B

Salix serissaefolia Kimura

【種の特性】落葉高木。高さ、10～25m。葉は長楕円状狭卵形で、長さ4～7cm。細鋸歯がある。葉は無毛。雄花は、雄しべが2本、基部で合着、花糸は基部が有毛。雌しべは、白色軟毛を密生する。花期は、4月～5月。風媒で風散布。
河岸に生育する。ヤシャブシコゴメヤナギ群目。[MM]

【分布】本州。

【県内の状況】主に北総と南総と安房の河岸に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:395 / 新千植誌 1975:440 / 千植誌 2003:91 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:196

【写真】1957.4.9 鴨川市 標本: CBM BS-259102

(天野誠)



B コミヤマスミレ スミレ科

2009	B
2017	B
2023	B

Viola maximowicziana Makino

【種の特性】 小型の多年生草本。葉の表面は緑色で脈が赤色を帯びるものから暗緑色、紫色を帯びるものなど変化がある。葉や花柄には粗い毛がある。萼片は有毛で反り返る。側弁の基部には毛がある。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 南部の房総丘陵に稀。湿り気のある沢筋の林内、特にスギ林に生えることが多い。千葉県産のスミレの中では最も花期が遅い。

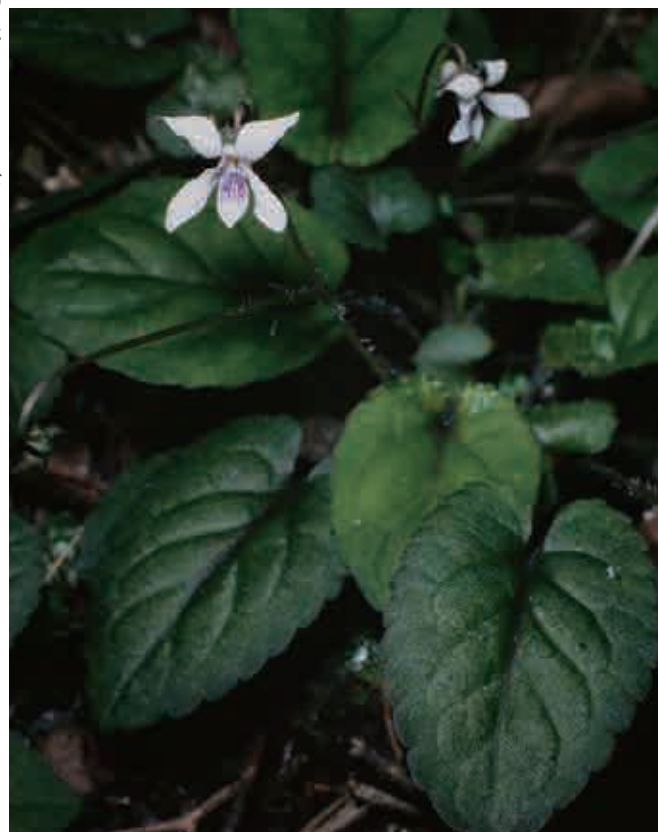
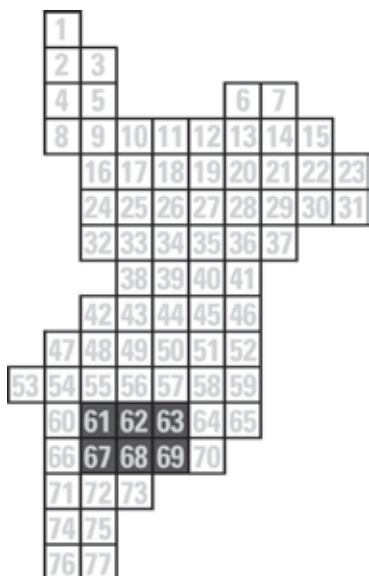
【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：379, 385

【写真】 1985.5 東京都

大場達之

(谷城勝弘)



B ヒナスミレ スミレ科

2009	B
2017	B
2023	B

Viola takedana Makino

【種の特性】 小型の多年生草本。葉の鋸歯は鋭く、先はやや尖り、両面とも粗い毛が多い。花は淡紅紫色で側弁の基部に疎らに毛がある。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国東部。

【県内の状況】 丘陵地に点在する。落葉広葉樹の腐葉の多い林内や林縁に生える。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 倉俣武男 1993 千葉県植物目録未記載種 5 点について。千葉生物誌

42(2)：64-65 / 千植誌 2003：380, 384

【写真】 2004 八街市 大場達之

(谷城勝弘)



B アギスミレ スミレ科

Viola verecunda A.Gray var. *semilunaris* Maxim

2009	
2017	B
2023	B

【種の特性】小型の多年性草本。高さは10cmから30cmになる。葉は横に長い三日月形、花後、茎が伸びる。花は母種のツボスミレと同じ。虫媒で、アリ散布。花期は、4月から6月。水田の畦や湿地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】船橋市で1995年6月12日に採集された標本（CBM BS-85154）と茂原市で1960年5月1日に採集された標本（CBM BS-10858）と銚子市で2006年9月11日に採集された標本（CBM BS-285150）と同市で2003年11月15日に採集された標本（CBM BS-331333）と同市で2013年6月25日に採集された標本（CBM BS-339410）がある。また、柏市で、2007年4月20日に採集された標本（CBM BS-285150）と千葉市に（CBM BS-399130）ある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1956:353 / 新千植誌 75:397 / 千植誌 2003:377

【写真】2006.9.11 銚子市 標本: CBM BS-268857

（天野誠）



B ハマナタマメ マメ科

Canavalia lineata (Thunb.) DC.

2009	B
2017	C
2023	B

【種の特性】多年生つる草本。海岸の砂浜または崖地に生える。葉は3出複葉で互生。花は6～8月に咲き、やや淡紅紫色。花は竜骨弁を上にして咲くことが多い。花弁は滑らか。種子は水によく浮く。虫媒で海流散布。[H] クサトベラ群団。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球・小笠原。台湾、中国。千葉県は北限にあたる。

【県内の状況】鴨川市から勝浦市、鋸南町、館山市などから生育が確認されている。

【保護対策】海岸崖地を保全することが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1954 房総半島に於けるハマナタマメの分布、採集と飼育 18(11): 143-145 / 山井 1979 冬虫夏草 14: 5-15 / 千植誌 2003: 298, 308

【写真】1997 館山市 大場達之
（遠藤泰彦／大場達之 追補／天野誠）



B フジキ マメ科

2009	B
2017	C
2023	B

Cladrastis platycarpa (Maxim.) Makino

【種の特性】夏緑高木。沢沿いの夏緑林に生える。高さ 10～15 m。葉は羽状複葉で対生。花は 6～7 固に咲く。花序は枝に直立し円錐花序。果実は扁平で長さ 5～8 cm。虫媒で風散布。[MM]

【分布】本州（東西南部以西）・四国。台湾、中国。

【県内の状況】勝浦市、大多喜町など房総丘陵で生育が確認されている。

【保護対策】自生環境をを保全する。

【文献】千植誌 2003：294, 303

【写真】2005.06.16 勝浦市 大場達之

(遠藤泰彦／大場達之
追補／天野誠)



B ミヤマトベラ マメ科

2009	B
2017	C
2023	B

Euchresta japonica Hook.f. ex Regel

【種の特性】照葉樹林内に生育する小型の常緑低木。葉は 3 出複葉で対生。高さ 30～80 cm。花は 7 月で、花序は頂生し総状花序に 5～8 個ほどの白い花をつける。果実は黒紫色に熟し、中に 1 個の種子を入れ、果皮は成熟後も乾燥しない。虫媒で鳥散布(?)。カクレミノースダジイ群目。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。済州島、中国。国内では生育地が限定されている。

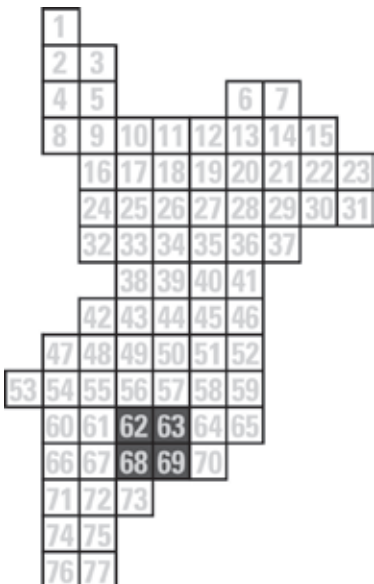
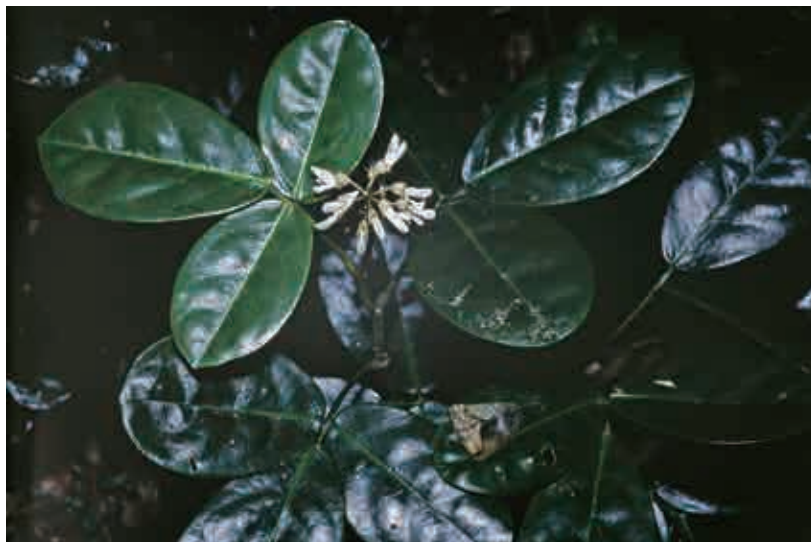
【県内の状況】生育地は清澄山系などに限定される。

【保護対策】自然林を保全することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：406／千植誌 2003：295, 303

【写真】1995 君津市 大場達之

(遠藤泰彦／大場達之 追補／天野誠)



B ビッチウヤマハギ マメ科

2009	
2017	A
2023	B

Lespedeza thunbergii (DC.) Nakai var. *albiflora* (Schn.) f. *angustifolia* (Nakai) Ohwi

【種の特性】落葉性半低木。日当たりの良い草原に生育する。葉の表面には、一面に短毛が生えている。花序は、葉柄より長い。萼裂片は鋭頭。虫媒で、自動散布。花期は、8月から10月。[N]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】白井市で2004年9月25日に採集された標本（CBM BS-267903）と市川市で1950年9月17日に採集された標本（CBM BS-167838）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】改訂新版日本の野生植物 3 2016 279

【写真】2004.9.25 白井市 標本：CBM BS-267903

(天野誠)



B ミソナオシ マメ科

2009	C
2017	C
2023	B

Ohwia caudata (Thunb.) H.Ohashi

【種の特性】夏緑小低木。日陰の林縁や林床に生える。

茎は分岐して、葉は3出複葉で互生、葉柄の上面が平坦になる、小葉は披針形で下面はやや白くなる。花は8～9月に咲き、総状花序は茎の頂あるいは上部の葉腋から出る。花は白色。果実は長さ8～13 cmで4～6個の節があり、短い堅い鈎毛があって衣類などに付着する。虫媒で付着散布。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】館山市で確認され、南房総市にわずかに見られるほか、山武市でも発見され、一宮町でも採集されている。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：297, 306

【写真】1988.10.28 南房総市 標本：CBM BS-295264

(遠藤泰彦／大場達之 追補／天野誠)



B ノハラクサフジ マメ科

2009	C
2017	A
2023	B

Vicia amurens Oett.

【種の特性】多年生のつる性草本。茎は横に枝分かれして広がり高さ80～150cm。葉は羽状複葉で互生し小葉は10～16個でやや無毛で黄緑色。托葉は歯状があるか2裂する。花は7～9月に咲き淡青紫色。虫媒で重力散布。植物体はヒロハクサフジに似るが毛が少ない。県内では海岸に面した崖地に生育する。[H]

【分布】本州（秋田県、千葉県、神奈川県、中部地方）・九州（薩摩半島）。朝鮮、中国東北部、アムール、ウスリー。

【県内の状況】鴨川市及び勝浦市に分布が限定される。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】遠藤泰彦・大橋広好 1994 植物研究雑誌 69：379-382 / 千植誌 2003：300, 317

【写真】1953.8.3 勝浦市 標本：CBM BS-179637

（遠藤泰彦／大場達之 追補／天野誠）



B オオバクサフジ マメ科

2009	
2017	C
2023	B

Vicia pseudo-orobus Fisch. & C.A.Mey.

【種の特性】中型のつる性多年生草本。茎は高さ80～150cm。葉は、4～10枚の小葉があり、先はつるになる。総状花序に多数の蝶形花を付ける。虫媒で、自動散布。花期は、8月～10月。丘陵の草地に生育する。[H]

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】北総の千葉市、佐倉市、成田市などに分布する。

【保護対策】生育地の草地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 367 / 新千植誌 1975 409 / 千植誌 2003 309 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016 299

【写真】2015.10.3 成田市 標本：CBM BS-389347

（天野誠）



B ヒナノキンチャク ヒメハギ科

2009	B
2017	A
2023	B

Polygala tatarinowii Regel

【種の特性】 小形の一年生草本。高さ4～12 cmで基部から分枝。葉は互生し、卵円形で全縁、縁に細毛がある。花は7～10月。枝の先に総状につき淡紅紫色。虫媒でアリ散布。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア、インド。

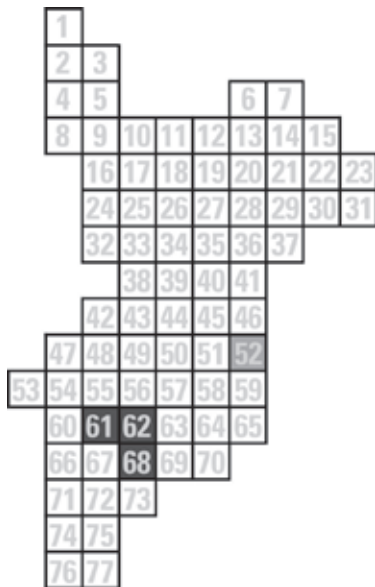
【県内の状況】 乾いた草地の間の小裸地、芝生などに生える。一宮町・君津市に記録がある。

【保護対策】 現在知られている山地の環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：344, 337

【写真】 2000.10.20 君津市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B クロツバラ クロウメモドキ科

2009	B
2017	A
2023	B

Rhamnus davurica Pall. var. *nipponica* Makino

【種の特性】 夏緑低木。葉は短枝に集まってつき、倒卵形～倒卵状楕円形で長さ3～8cm。短枝はのちに棘状になる。花は5月。黄緑色。果実は黒く熟す。[MM]

【分布】 本州（中・北部）。中国、プリモリア、モンゴル。

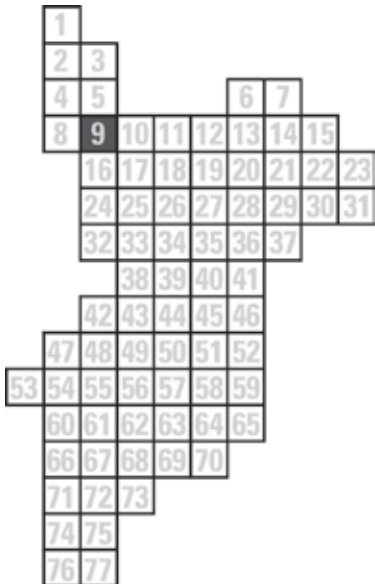
【県内の状況】 柏市で稀に見られる。

【保護対策】 自生地を保全する。

【文献】 千植誌 2003：356, 360。

【写真】 2001.10.17 柏市 標本：CBM BS-178017

(大場達之／天野誠)



B クロウメモドキ クロウメモドキ科

2009	B
2017	C
2023	B

Rhamnus japonica Maxim. var. *decipiens* Maxim.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。これまでコバノクロウメモドキとして記録されていた千葉県産のものはクロウメモドキの葉の少し小さい型と考えられる。コバノクロウメモドキは石灰岩地などに生え、葉の長さ1～3cm程度である。県内では湿地のハンノキ林の周辺や雑木林の中などに見られる。ほかではブナ帯の尾根筋、林縁、岩場などにも生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】本州・四国・九州の太平洋側。本州の日本海側と北海道には葉の大きなエゾクロウメモドキが分布する

【県内の状況】千葉市、佐倉市、柏市、八千代市、匝瑳市、白井市、富里市、芝山町、市原市、成田市などから報告がある。県北部に分布の重点がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】齊藤吉永 1970 コバノクロウメモドキの群落. 千生誌 19(2) : 66 / 新千植誌 1975 : 399 / 浅野貞夫 1978 千葉県の方言トリトマラズの分布. 植物採集ニュース 100 : 50. / 千植誌 2003 : 356, 360

【写真】2002.5.3 印西市
谷城勝弘
(大場達之/天野誠)



B コダイコンソウ バラ科

2009	C
2017	C
2023	B

Geum japonicum Thunb. ex Murray var. *iyosanum* (Koidz.) Murata

【種の特性】中型の多年生草本。茎葉は2～3裂、根生葉は羽状複葉。虫媒で付着散布。花は7～9月。[H] ヨモギ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では稀で、勝浦市（1983）と鴨川市（1984）などで標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 275, 279

【写真】2012.9.26 君津市 標本: CBM BS-330758

(御巫由紀)



B ズミ バラ科

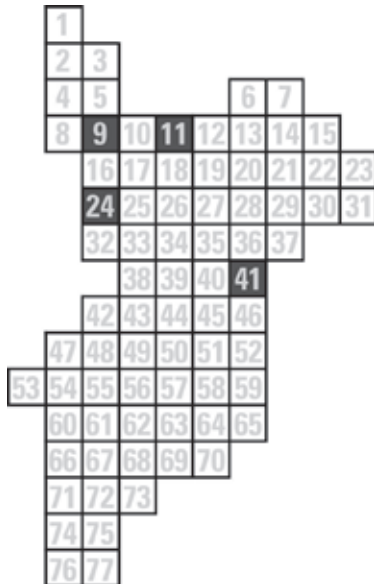
2009	B
2017	B
2023	B

Malus toringo (Siebold) Siebold ex Vriese

【種の特性】夏緑小高木。葉は単葉で互生。主としてブナ帯の明るい林、林縁、湿原などに生える。低地遺存ブナ帯要素。虫媒で鳥散布。ノイバラ群綱。[N～M]

【分布】北海道・本州・四国・九州の山地。

【県内の状況】標本は東金市（1929 CBM BS-27154）、柏市（1989.7.2 CBM BS-84380、1995.4.29 CBM BS-125757）、同市（1998.4.27 CBM BS-140537）で採集されている。



【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：292, 301

【写真】2005.5.1 柏市

谷城勝弘

(御巫由紀)



B オオウラジロノキ バラ科

2009	B
2017	B
2023	B

Malus tschonoskii (Maxim.) C.K.Schn.

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。高さは最大 10m。花は 5 月。低地遺存ブナ帯要素。[MM]

【分布】本州、九州（九重山）の山地。

【県内の状況】新版千葉県植物誌に、オオズミとして載っているものはオオウラジロノキである。清澄山、銚子市で記録している。鴨川市でも報告がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】鶴岡繁・福田泰二 1988 銚子で新しく発見された 2 種の植物について . 千生誌 38(1)：1-4 / 千植誌 2003：292, 301

【写真】2002.4 銚子市 大場達之

(御巫由紀)



B カワラサイコ バラ科

2009	C
2017	C
2023	B

Potentilla chinensis Ser.

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。カワラハハコ・ヨモギ群団。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 採集された標本は、古いものでは東金市（1929）、鴨川市（1932）、多古町（1937）、館山市（1950）などがあるが、現状は不明である。近年では富津市（1983）、印西市（1986）、八千代市（1995）、習志野市（1995）、南房総市（1996）の標本がある。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：274, 278

【写真】 1932.6 鴨川市 標本：CBM BS-183023

（御巫由紀）



B オオバライチゴ バラ科

2009	C
2017	C
2023	B

Rubus croceacanthus H.Lév.

【種の特性】 夏緑性の低木。葉は3～5（～7）小葉からなる羽状複葉。虫媒で食散布。花は白色、3～4月。果実は球形ないし卵円形で紅熟する。全体に短い腺毛があるが、軟毛は少ない。[N]

【分布】 本州（房総、伊豆、紀伊半島および山陽）・四国・九州・琉球。朝鮮（南部）。

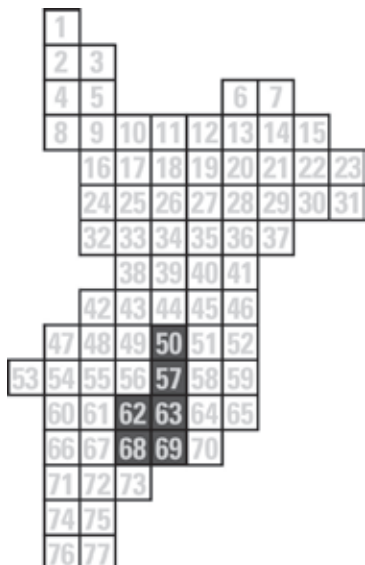
【県内の状況】 県内では市原市、鴨川市、清澄山等での標本がある。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：271, 267

【写真】 2007.6.16 鴨川市 標本：CBM BS-295283

（御巫由紀）



B ハルニレ ニレ科

Ulmus japonica (Rehd.) Sargent

2009	A
2017	A
2023	B

【種の特性】夏緑高木。高さ 20 ～ 40 m。樹皮は縦に深い割れ目があり、鱗片状にはがれ落ちる。葉は倒卵形～楕円形で先端は短く尖り、表面はざらつく。葉脈は 10 ～ 20 対。花は 3 ～ 5 月に咲き、両性。果実は翼果で倒卵形～広楕円形。風媒で風散布。ブナ帯の肥沃で湿潤な林に生える。ブナ帯遺存要素 [HH]。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】社寺に植えられるほか、自生と考えられる個体が千葉市などに見られる。保護対象は自生株のみ。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 114, 119

【写真】2001 千葉市 大場達之
(大場達之／天野誠)



B シマナガバヤブマオ イラクサ科

Boehmeria egregia Satake

2009	
2017	C
2023	B

【種の特性】大型の多年生草本。高さ、100 ～ 200cm。葉は狭卵形から卵状長楕円形で、先端は長く尾状に伸びる。花が球状に集った小花序が数珠状に集まっている。花期は、8月～10月。重力散布。海岸付近の道端に生育する。[H]

【分布】本州（千葉）・伊豆諸島。

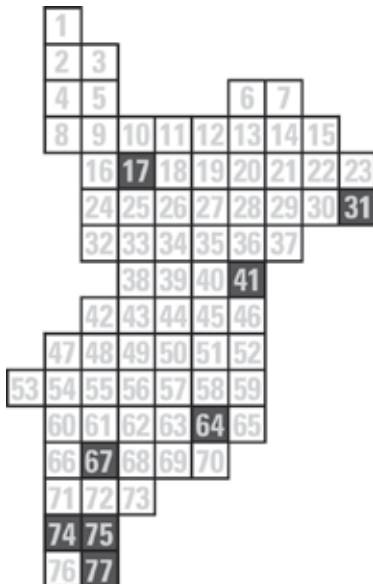
【県内の状況】主に南総の丘陵地や海岸付近に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:389 / 新千植誌 1975:434 / 千県植誌 2003:128 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:344

【写真】2008.9.20 館山市 標本: CBM BS-285799

(天野誠)



B トキホコリ イラクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Elatostema densiflorum Franch. et Sav. & Maxim.

【種の特性】 小形の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。かつては湿った畑、あるいは半日陰の庭などに多く見られたが現在はほとんど絶滅して稀になっている。本来の生育地は河川氾濫原のオギ群落の下と考えられ、渡良瀬川遊水池には大量に見られる。[Th]

【分布】 本州。

【県内の状況】 利根川沿岸で記録されており、庭先あるいは路傍で採集されている。

【保護対策】 雑草の生活をする種類の保全は難しい。今後対策を練る必要がある。

【文献】 千植誌 2003：126,123,129

【写真】 2005 東金市 伊藤純子

(大場達之／天野誠)



B ホソバイラクサ イラクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Urtica angustifolia Fisch. ex Hornem.

【種の特性】 やや大形の多年生草本。茎は高さ 50 ～ 150 cm で直立。茎には上向きの短い毛がある。葉は対生し披針形から卵状長楕円形。葉柄などに棘毛がある。托葉は各節に 4 枚。(H).

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部、モンゴル、東シベリア、ブリモリア。

【県内の状況】 利根川沿岸で 2004 年にはじめて発見された。ブナ帯に主として分布する種類で、上流から流下したと考えられるが、シイ・カシ帯では河川の氾濫原の草原の構成種となっているらしい。

【保護対策】 河川の氾濫原を自然に維持する。

【文献】 大場達之・木村陽子 2004 利根川で発見されたホソバイラクサ．千植誌資料 20：161-162.／千植誌 2003：126,123,129

【写真】 2004.07.13 柏市 木村陽子

(大場達之／天野誠)



B アサダ カバノキ科

2009	B
2017	B
2023	B

Ostrya japonica Sarg.

【種の特性】夏緑高木。樹皮は縦長にはがれて落ちる。葉は単葉で互生。風媒で風散布。ブナ帯下部からシイ・カシ帯上部の夏緑林あるいは針葉林に混交する。

ツガ群目。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】房総丘陵に稀に見られる。

【保護対策】所在を明らかにして伐採を事前に防ぐ。

【文献】千植誌 2003：109, 107

【写真】2002.5.5 君津市 標本：CBM BS-186592

(大場達之／天野誠)



B ナラガシワ ブナ科

2009	
2017	B
2023	B

Quercus aliena Blume

【種の特性】落葉高木。高さ 25m に達する。樹皮は不規則に割れる。葉はコナラより大きく、長さ 20cm に達する。葉身は、倒卵形でまばらに大きな鋸歯がある。葉裏に星状毛がある。殻斗は幅広く、1.4～2.5cm になる。殻斗には、長楕円形の鱗片が密着して付く。風媒で、被食散布。花期は、4 月。落葉樹林に散在する。[MM]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、東南アジア、ヒマラヤ。

【県内の状況】南房総市で、1989 年 11 月 8 日に採集された標本 (CBM BS-85018) と同市で、1972 年 12 月 18 日に採集された標本 (CBM BS-278510) がある。また、山武市で、1927 年 7 月 5 日に採集された標本 (CBM BS-26846) がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:335 / 新千植誌 1975:380 / 千植誌 2003:111 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:96

【写真】1972.12.18 南房総市 標本：CBM BS-85018

(天野誠)



B イチイガシ ブナ科

2009	B
2017	B
2023	B

Quercus gilva Blume

【種の特性】常緑高木。樹皮は薄片となつてはげ落ちる。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。葉は倒披針形で上部に鋭い鋸歯がある、下面は黄褐色の星状毛が密にある。土壌の深いところに生える。カクレミノースダジイ群目。[MM]

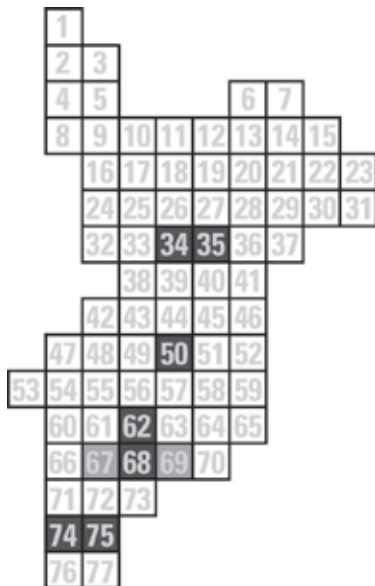
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵南部の降水量の多い地域に見られるが、長南町に離れた産地がある。

【保護対策】イチイガシを含む林分を良好に保全する。特に林内の空中湿度を保持する。

【文献】千植誌 2003：111, 117

【写真】2001 君津市 大場達之
(大場達之／天野誠)



B ウバメガシ ブナ科

2009	B
2017	B
2023	B

Quercus phillyraeoides A.Gray

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。殻斗外面は鱗片で被われる。ウバメガシ群団。[N～M]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。千葉県は三浦半島南端の産地とともに分布の北東限をなす。

【県内の状況】南房総市に自生と考えられるものが知られている。千葉市など都市部では街路・公園などに多く植栽され、それから逸出することもある。保護植物の指定は自生地に限っている。

【保護対策】自生地はいずれも社寺の境内にあたる。貴重な存在であることを地元で周知し、合意の上で保護策を講ずることが必要である。

【文献】山井廣・大場達之・木村陽子 1998 千葉県のウバメガシとイブキ. 千植誌資料 13：91-92. 千植誌 2003：111, 108

【写真】1998.4.10 南房総市
大場達之

(大場達之／天野誠)



B サワグルミ クルミ科

2009	
2017	A
2023	B

Pterocarya rhoifolia Siebold & Zucc.

【種の特性】大木になる落葉性木本。高さ30mに達する。葉は奇数羽状複葉で、小葉の数は、11～21枚。雌雄異花。雄花序は長さ5～15cm、雄花には8～13本の雄蕊がある。雌花序は長さ10～20cm、雌花の柱頭は2裂する。果実は、羽状の小苞に包まれる。風媒で、風散布。花期は、4月～6月。山地の谷沿いに生育する。サワグルミ群団。[MM]。

【分布】北海道・本州・四国・九州。中国（山東省）。

【県内の状況】柏市で1990年6月8日に採集された標本（CBM BS-84930）がある。白井市で2006年5月28日に採集された標本（CBM BS-234343）がある。個体数は10株以下だった。他に鋸南町で採集された標本が収蔵されている。目視記録として、君津市、市原市、袖ヶ浦市がある。遺存的な分布をしており、風媒で、それぞれの産地の個体数が少ないので、次世代の維持が困難であると考えられる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:439 / 千植誌 2003:85

【写真】2000.8.18 市川市 標本：CBM BS-306638

（天野誠）



B ヒメビシ ヒシ科

2009	A
2017	A
2023	B

Trapa incisa Siebold & Zucc.

【種の特性】浮葉性の一年生草本。水中茎は節に羽状の根状の葉をつけ、茎の頂端に三角状菱形の葉を集めつけて浮かぶ。葉は光沢があり片側に3～4個の粗い鋸歯があり、幅1～2cm。葉柄は上部がふくらみ浮き袋となる。花は7～9月に咲き、花弁は3個で白色～淡紅色で、径6～8mm。果実は上縁に2本の棘があり、両側面にも下向きの棘がある。虫媒で水散布。（HH）。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国東北部、ブリモリア。

【県内の状況】印旛沼、香取市など利根川水系に多いが、鴨川市、南房総市、大多喜町などからも報告があるが、近年の記録は少ない。

【保護対策】池・沼を自然に保つ。

【文献】千植誌 20033：93,397

【写真】2004 千葉市栽植
大場達之

（大場達之／天野誠）



B タニタデ アカバナ科

2009	
2017	B
2023	B

Circaea erubescens Franch. & Sav.

【種の特 性】 中型の一年生草本。茎は、10 から 50cm。葉は、長卵形から卵形、低鋸歯がある。花弁は、3 裂する。果実に溝がない。虫媒で、動物外散布。花期は、7 月から 9 月。林床に生育する。[G]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 浦安市で 1987 年 6 月 22 日に採集された標本（CBM BS-58114）と大多喜町で 1996 年 8 月 8 日に採集された標本（CBM BS-128021）と同町で 2011 年 8 月 30 日に採集された標本（CBM317991）と君津市で 2011 年 8 月 25 日に採集された標本（CBM BS-316619）がある。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:393 / 千植誌 2003:394 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:263

【写真】 2011.8.25 君津市 CBM BS-316619

（岩槻秀明）



B ムクゲアカバナ アカバナ科

2009	
2017	
2023	B

Epilobium parviflora Schreb.

【種の特 性】 大型の多年生草本。低湿地に生え、茎は直立し、高さ 1.5m 前後に達する。地下茎をひかない。茎や葉は綿毛が密生し、白っぽく見える。柱頭は 4 裂するがオオアカバナのように開出しない。花弁の長さは 4-8mm。かつてはススヤアカバナとも呼ばれていたが、その和名の元になった標本が別種であったことから改称された。[H]

【分布】 本州（中部以北）。ユーラシアの温帯

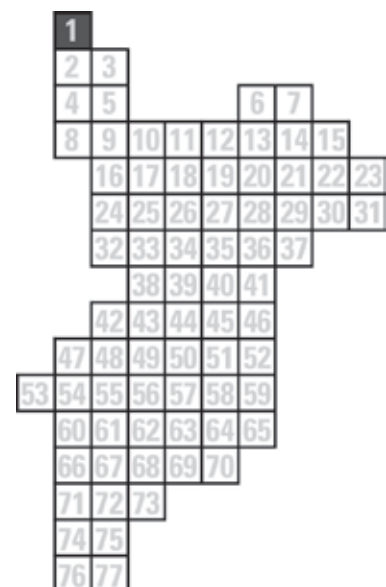
【県内の状況】 千葉市、佐倉市、印西市、野田市で確認されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。開発、除草剤の使用などは控える。また遷移の進行による草原化にも留意が必要。類似する生育環境を精査することで新たな産地が発見される可能性がある。

【文献】 大野啓一．ススヤアカバナが千葉市と佐倉市で見つかる．千植誌資料 29：285-287

【写真】 2020.8.2 野田市 岩槻秀明

（岩槻秀明）



B ミズユキノシタ アカバナ科

重	2009	B
	2017	B
	2023	B

Ludwigia ovalis Miq.

【種の特性】 高さ 12～25 cm の夏緑の多年生草本。主として海岸近くの明るい水湿地に生育する。茎の基部はしばしば匍匐し、不定根を伸ばす。葉はほぼ円形に近い広楕円形で、互生、基部は楔形で、短い葉柄がある。葉は全縁で、無毛。花は上部の葉腋に単生する。花は 4 数性で、萼片は三角形、花弁はない。果実は蒴果で、楕円球、上部から裂けて、種子を散布する。沈水形が存在する。アクアリウム・プランツとして栽培されており、都市部に生育するものについては、帰化の可能性が疑われる。虫媒で水散布。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。台湾。

【県内の状況】 主として九十九里平野に分布するが、南総の丘陵地にも点在する。

【保護対策】 湿地の生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：395, 398

【写真】 1994.6 茂原市 大場達之

(天野 誠)



B キハダ ミカン科

	2009	C
	2017	C
	2023	B

Phellodendron amurense Rupr.

【種の特性】 夏緑高木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[MM] [H] ブナ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】 房総丘陵と船橋市から報告がある。

【保護対策】 真の自生か否か調査が必要。

【文献】 千植誌 2003：332, 335

【写真】 1952.4.30 八街市 標本：CBM BS-3183

(大場達之／天野誠)



B シコクハタザオ アブラナ科

2009	D
2017	C
2023	B

Arabis serrata Franch. & Sav. var. *sikokiana* (Nakai) Ohwi

【種の特性】多年生草本。やや湿った日陰の岩場。葉は単葉で互生、茎基部の葉は地表近くにロゼット状に集まってつく。千葉県のは古い記録ではイワハタザオとされていた。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の湿った岩場にみられ、かつては林道沿いに多く見られたが、全体の乾燥化で減少している。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：236, 239

【写真】2020.4.26 南房総市 谷城勝弘

(大場達之／天野誠)



B ユリワサビ アブラナ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eutrema tenuis (Miq.) Makino

【種の特性】小形で冬緑の多年生草本。葉は羽状複葉で根元に集まる。花は4～5月。長い斜上する枝を出し、総状に10個ほどの白い花をつける。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】本州（関東以西）・本州・四国・九州・琉球。マレーシア。

【県内の状況】沢沿いの湿った肥沃な林に生える。千葉県では極めて少ない。

【保護対策】湿润林の保全を考える。このような植物は、それが本拠とする植物群落を保全することが本来であろう。

【文献】蒲谷肇 1994 演習林植物目録にないアブラナ科2種．清澄 14：33-34．／千植誌 2003：243, 250

【写真】2004 山梨県 大場達之

(大場達之／天野誠)



B ハタザオ アブラナ科

2009	C
2017	A
2023	B

Turritis glabra L.

【種の特性】 中型の二年生草本。全体が白緑色を帯びる、茎は直立し高さ 50 ～ 100 cm、枝は茎に沿って直立。葉は単葉で互生。花は 4 ～ 6 月に咲き黄白色。虫媒で重力散布。〔Th〕

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。

【県内の状況】 河原、砂地などの痩せた草地に生える。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：236, 239

【写真】 1998.5.13 九十九里町 標本：CBM BS-138098



(大場達之／天野誠)



B ハマボウ アオイ科

2009	A
2017	A
2023	B

Hibiscus hamabo Siebold & Zucc.

【種の特性】 夏緑低木で 2 m ほどになる。枝・葉・苞・萼などに星状毛が密生する。葉は偏円形～円形。長さ 3 ～ 6 cm で 5 脈がある。花は 7 ～ 8 月に咲き、直径 5 cm で黄色。虫媒で海流分布。(M)。

【分布】 本州（千葉県以西）・四国・九州。済州島。

【県内の状況】 館山市などで記録があったが、高潮で流されたりして安定的な生育環境は少ない。2008 年に夷隅川河口で群落が発見されたほか、船橋市の埋め立て地でも漂着種子によると思われる個体が見つっている。東京湾では多摩川河口でも漂着分布したと考えられるものが発見されている。

【保護対策】 生育地の開発を行わない。

【文献】 千植誌 2003：369, 362, 370

【写真】 1982 三浦半島 大場達之

(大場達之／天野誠)



B コショウノキ ジンチョウゲ科

2009	C
2017	C
2023	B

Daphne kiusiana Miq.

【種の特性】常緑小低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。カクレミノースダジイ群目。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】房総丘陵の照葉樹林に見られるが、産地は少ない。

【保護対策】自生地の環境を保全する

【文献】千植誌 2003：373, 364

【写真】2018.2.28 いすみ市 標本：CBM BS-400906

(大場達之／天野誠)



B マツグミ オオバヤドリギ科

2009	B
2017	A
2023	B

Taxillus kaempferi (DC.) Danser

【種の特性】寄生性の常緑低木。葉は単葉で対生。鳥媒で鳥散布。モミなどの針葉樹の枝に寄生する。

[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山、鋸山と長南町から記録がある。高い枝に寄生するので発見が困難で、大風の後に落下した枝で確認されることが多い。

【保護対策】生育地の寄主樹木を保護することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：433. / 千植誌 2003：135, 132

【写真】2000 君津市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B オオバヤドリギ オオバヤドリギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Taxillus yadoriki (Siebold) Danser

【種の特性】常緑小低木。常緑樹の枝に寄生する。葉は単葉で対生。花は9～11月に咲き筒状で外面は赤褐色で細かい毛が覆う、内面は光沢があって黒紫色、花被の裂片は4個で上方に反曲する。鳥媒で鳥散布。[N]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】房総丘陵以南に分布。

【保護対策】寄主木を保全する。

【文献】千植誌 2003：132, 135

【写真】1997.10.2 館山市 CBM BS-124179

(大場達之／天野誠)



B ツクバネ バクダン科

2009	C
2017	C
2023	B

Buckleya lanceolata (Siebold. & Zucc.) Miq.

【種の特性】夏緑低木。半寄生。葉は単葉で対生し卵形で先端は長く尖る。花は6月。雌雄異株で花は淡緑色で花被裂片は4個で淡緑色。果実は先端に長さ2.5～3cmの苞4枚がつき、つく羽根状。虫媒で重力散布。半寄生。低地遺存ブナ帯要素。[N] ブナ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の乾いた尾根筋などの林に生える。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：131, 135

【写真】1989.11.5 君津市 標本：CBM BS-41667
(大場達之／天野誠)



B ヒノキバヤドリギ バックダン科

2009	B
2017	B
2023	B

Korthalsella japonica (Thunb.) Engl.

【種の特性】 寄生性の常緑低木。葉は単葉で対生。鳥媒で鳥散布。主として照葉樹に寄生する。[E]

【分布】 本州（関東以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、マレーシア。

【県内の状況】 清澄山、南房総市内浦山などから記録があり、かつては九十九里浜平野の生け垣などに稀でなく見られたが、現在では少ない。車の排気ガスなど大気汚染の影響が考えられる。伊豆諸島には多く見られ、県内でも伊豆諸島から移入した植木に付いてきたと考えられる例もある（国内帰化）。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：433／千植誌 2003：131

【写真】 1990 東京都 大場達之
(大場達之／天野誠)



B マツナ ヒユ科

2009	B
2017	B
2023	B

Suaeda glauca (Bunge) Bunge

【種の特性】 中形の一年生草本。葉は単葉で細棒状、互生。風媒で水散布。塩湿地のゴミの集まる所に集まって生える。[Th] オカヒジキ群綱。

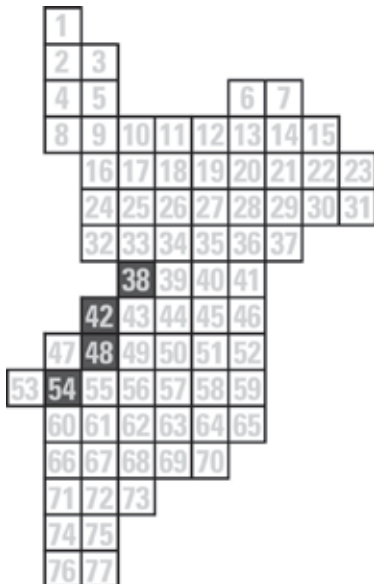
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、ブリモリア。

【県内の状況】 養老川、小櫃川などに残っているが、ハママツナにくらべて生育環境が狭小である。

【保護対策】 生育地が年々変動する傾向があるので、先駆的一年生草本は動的な塩湿地全体の保全が必要である。

【文献】 日本の野生植物 1981 草本 2, 49 図版／千植誌 2003：177, 168

【写真】 1992.12.04 市原市 大場達之
(大場達之／天野誠)



B ハマツナ ヒユ科

Suaeda maritima (L.) Dumort.

2009	C
2017	C
2023	B

【種の特性】 小型の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で海流散布。[Th] ハマツナ群団。

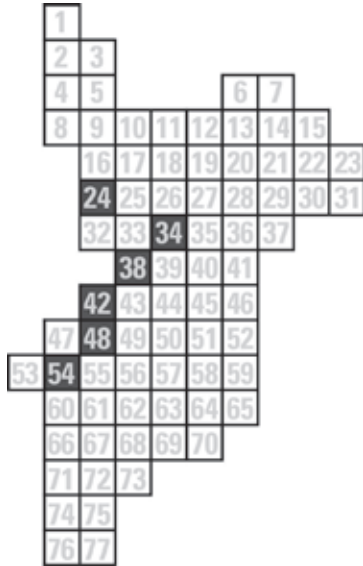
【分布】 本州・四国・九州。世界に広く分布。

【県内の状況】 かつては東京湾沿岸の河口などに多かったが、埋め立てにより激減している。

【保護対策】 塩湿地を計画的の保全する。また埋め立て地内に塩湿地を汐入公園のような形で造成する。

【文献】 小松崎一雄 1971 千葉県小櫃川河口のハマツナ群落。植物採集ニュース 54: 62
／千植誌 2003: 168, 177

【写真】 2016.9.29 木更津市 標本: CBM BS-402894
(大場達之／天野誠)



B ナンバンハコベ ナデシコ科

Cucubalus baccifer L. var. *japonicus* Miq.

2009	C
2017	C
2023	B

【種の特性】 長さ 150 cm にもなる夏緑の多年生つる性草本。適湿の林縁に生育する。茎には伏毛があり、他の植物によりかかって斜上する。

葉は対生し、卵形から楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、短い柄がある。葉は全縁で、両面にわずかに伏毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は 5 数性で、萼片は癒着して皿形になる。花弁は、倒披針形で、深く切れ込み、白色で、長さ約 10 mm、長い爪がある。果実は液果で、球形、黒熟する。虫媒で重力散布。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、千島、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】 主として南総台地に分布する。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003: 154, 164

【写真】 1997.8.3 酒々井町 標本: CBM BS-170939
(大場達之／天野 誠 追補)



B フシグロ ナデシコ科

2009	C
2017	C
2023	B

Silene firma Siebold & Zucc.

【種の特性】 高さ 25 ～ 90 cm の二年生草本。乾いた斜面や草地に生える。茎を単生し、上部で枝分かれする。茎は四稜形で十字対生、毛がある場合もある（ケフシグロ form. *pubescens* (Makino) Ohwi）。その名の通り、節は紫色に着色する。葉は長楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、明瞭な柄はなく、長さ 3 ～ 6 cm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。二出集散花序を頂部と上部の葉腋につける。花は 5 数性で、萼片は癒合し、卵形となる。長さ 7 ～ 9 mm。花弁は、狭倒卵形で深く二裂し、白色で、長さ 5 ～ 6 mm、爪が長い。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

【県内の状況】 北総と南総の丘陵地に点在する。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 154

【写真】 1998.8.24 佐倉市 標本: CBM BS-141713
(大場達之／天野 誠 追補)



B イシモチソウ モウセンゴケ科

2009	A
2017	A
2023	B

Drosera peltata Thunb.

【種の特性】 食虫性の多年生草本。地下に丸い塊茎があり、高さ 15 ～ 30cm の茎を 1 本出す。葉は単葉で互生し楕形で腺毛が多い。花は 6 ～ 7 月に咲き白色。虫媒で風散布。湿原や明るい林に生える。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】 九十九里浜平野において古い砂丘間低地の湿地に見られ、特に茂原市～長生村、山武市が古くから知られた産地で、このほかに大網白里市からも採集されている。また利根川沿いの佐原市からも採集されているが、現在その湿地は消滅しイシモチソウは絶滅している。成東・東金食虫植物群落以外では生育環境が土地の造成などで消滅し激減している。茂原市では湿原に生えるほか、アカマツの植林地にも多く見られた。

【保護対策】 かつての生育地では剥土などの土地造成によって裸出した地表に、埋土種子から回復している例がある。一度消失した場所で再生をはかることも考えられる。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 Komiya, S. & C. Shibata 1978 Distribution of the Droseraceae in Japan. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Edc. 7 : 3-39 / 千植誌 2003 : 220, 223

【写真】 2000.6.18 山武市
谷城勝弘

(大場達之／天野誠)



B マルミノヤマゴボウ ヤマゴボウ科

2009	
2017	B
2023	B

Phytolacca japonica Makino

【種の特性】大型の多年生草本。根は、肉質で肥大する。高さ 100cm ぐらい。茎は上部で分枝し、無毛。葉は、楕円形で鋭尖頭、長さ 15～20cm。花は直径 8mm ぐらい。果実は黒色で、10 個程度の心皮が合着する。虫媒で、鳥散布。花期は、6 月～9 月。やや湿った暗い林縁に生育する。[G]

【分布】本州・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】君津市で 2009 年 7 月 30 日に採集された標本 (CBM BS-389240) と同市で 2010 年 5 月 27 日に採集された標本 (CBM BS-298080) がある。鴨川市で 2010 年 8 月 20 日に採集された標本 (CBM BS-301924) と南房総市で 2002 年 5 月 21 日に採集された標本 (CBM BS-307136) がある。また、市原市で 1991 年 6 月 2 日に採集された標本 (CBM BS-53030) と大多喜町で 1990 年 12 月 30 日に採集された標本 (CBM BS-327826) がある。その他、東大千葉演習林

内で目視記録がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:383 / 新千植誌 1975:428 / 千植誌 2003:148 / 天野誠・藤平晃司・軽込勉・三次充和・久本洋子・御巫由紀・尾崎煙雄 2012 千植誌資料 267,269 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017: 144

【写真】2009.6.11 鴨川市 標本: CBM BS-301798

(天野誠)



B ホソバノウナギツカミ タデ科

2009	C
2017	A
2023	B

Persicaria hasato-auricula (Makino) Nakai

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎の下部は地をはい、上部に逆刺がある。葉は両面無毛。花穂は疎な穂状花序。花柄は無毛。虫媒で水分布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。中国南部、台湾。

【県内の状況】県全域に少数の記録があるが、県内には極めて稀である。

【保護対策】自然的な湿地をを保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 145, 140

【写真】1991.11.12 市原市 標本: CBM BS-32707

(谷城勝弘)



B ナガバノウナギツカミ タデ科

2009	C
2017	C
2023	B

Persicaria hasato-sagittata (Makino) Nakai

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎の下部は地をはい、上部に逆刺がある。葉は両面無毛。花穂は球形または広卵形で、密に多花。花柄に腺毛がある。

【分布】本州・四国・九州。中国南部、台湾。

【県内の状況】県北部の平野部に複数の記録があるが、その多くは土地の改変によって消滅した。

【保護対策】保護上の重要種が複数生育する多古光湿原を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：144, 139

【写真】1991.9 多古町 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B タニソバ タデ科

2009	
2017	B
2023	B

Persicaria nepalensis (Meisn.) H.Gross

【種の特性】小型の一年生草本。高さ10cm～50m。茎はよく分枝し、斜上する。葉は三角状卵形で、葉柄に流れる。花序は頭状。果実はレンズ形。虫媒で、重力散布。花期は、7月～10月。山地の湿った林縁に生育する。[Th]

【分布】北海道・本州・九州。千島列島（南部）、朝鮮、台湾、中国、東南アジア、ヒマラヤ、西アジア、北アフリカ。

【県内の状況】印西市で1984年6月14日に採集された標本（CBM BS-78790）と南房総市で1977年7月24日に採集された標本（CBM BS-236817）と館山市で1983年9月18日に採集された標本（CBM BS-236818）と富津市で1988年6月7日に採集された標本（CBM BS-154359）がある。また、君津市で2012年7月13日に採集された標本（CBM

BS-330854）と銚子市で2013年10月23日に採集された標本（CBM BS-350831）と富里市で1993年6月17日に採集された標本（CBM BS-62553）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:432 / 千植誌 2003:145

【写真】2012.7.13 君津市 標本: CBM BS-330854

(天野誠)



B オオミチヤナギ タデ科

2009	
2017	C
2023	B

Polygonum aviculare L. var. *vegetum* Ledeb.

【種の特性】 中型の一年性草本。高さ 30cm ～ 60cm。茎は直立する。葉は長楕円形、ミチヤナギより大きく、長さ 3 ～ 4 cm。花は緑色で上部の葉腋に数個付く。果実は、菱状卵形で、断面は三角形。種子には光沢がない。花期は、5 月から 10 月。虫媒で、重力散布。海岸の砂地や砂泥地に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州。

【県内の状況】 主に東京湾岸の砂浜や砂泥地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 142

【写真】 1999.6.12 野田市 標本: CBM BS-231434

(天野誠)



B ノリウツギ アジサイ科

2009	C
2017	A
2023	B

Hydrangea paniculata Siebold

【種の特性】 高さ約 5 m に達する夏緑の低木。山地の明るい林縁や草地に生える。数本の有髓の幹を叢生する。樹皮は細かく縦に裂ける。茎は円筒形で十字対生。葉は楕円形で、鋭頭、鋭鋸歯がある。基部は楔形で、有柄、長さ 5 ～ 11 cm。枝先に密な円錐花序を付ける。装飾花は白色、4 弁の楕円形の萼片が目立つ。有性花は 5 数性で、萼片は三角形で、鋭頭、長さ約 1 mm。花弁は、長楕円形で全縁、白色で、長さ 2.5 ～ 3 mm、反り返る。雄しべは長さ約 3 mm で、よく目立つ。雌しべは 3 心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

ミヤママタタビーヤマブドウ群団。

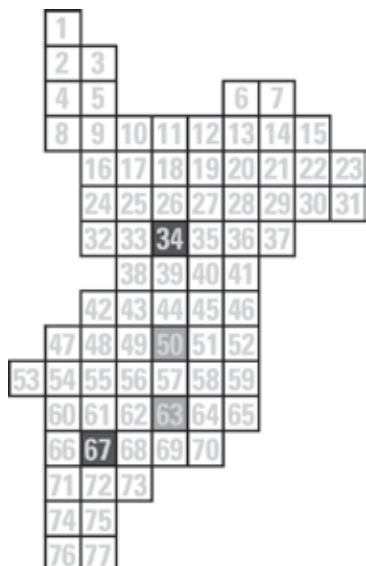
【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、中国。

【県内の状況】 北総と南総の丘陵地に点在する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 258, 265

【写真】 1999.8.11 千葉市 標本: CBM BS-161398
(大場達之/天野 誠 追補)



B ヒロハドウダンツツジ ツツジ科

2009	C
2017	C
2023	B

Enkianthus perulatus (Miq.) Schneider f. *japonicus* (Hook.f.) Kitam.

【種の特性】夏緑低木。虫媒で風散布。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】安房丘陵の北部にのみ知られる。最も近い他の自生地は伊豆半島である。普通に植えられているドウダンツツジは四国の蛇紋岩地に生える葉の細い品種である。

【保護対策】自生地を保護する。

【文献】千植誌 2003：430,418

【写真】1986.8.29 南房総市 標本：CBM
BS-374007

(大場達之／天野誠)



B ギンリョウソウ ツツジ科

2009	
2017	C
2023	B

Monotroastrum humile (D.Don) H.Hara

【種の特性】小型の多年生草本。菌根性。植物体は、無葉緑で、白色。茎は多数の鱗状の葉を付け、8～20cm。萼や花弁は果期まで残っている。果実は、液果で青い。花期は、4月～6月。虫媒で、風散布。腐植の多い湿った林床に生育する。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。千島、サハリン、朝鮮、中国、ミャンマー、ヒマラヤ。

【県内の状況】主に南総の丘陵地の常緑樹の林床に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:343 / 新千植誌
1975:373 / 千植誌 2013:431 / 改訂新版日
本の野生植物 4 2017:226

【写真】2006.6.8 君津市 標本：CBM BS-
385050

(天野誠)



B レンゲツツジ ツツジ科

2009	C
2017	C
2023	B

Rhododendron japonicum (A.Gray) Swinger

【種の特性】夏緑低木。ススキ草原、シラカバ林などに生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。[N]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部の雑木林などに稀に生える。本来はブナ帯を本拠とする種類で、種子の飛来によって散発的に生えているものと推定される。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：432, 420

【写真】1985.5.16 野田市 標本：CBM BS-79856

(大場達之／天野誠)



B ヒカゲツツジ ツツジ科

2009	A
2017	A
2023	B

Rhododendron keiskei Miq.

【種の特性】常緑低木。葉は単葉で互生。花は4～5月に咲き淡黄色。虫媒で風散布。シイ・カシ帯上部からブナ帯の日陰の岩場やモミ・ゴヨウマツ林の下などに生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

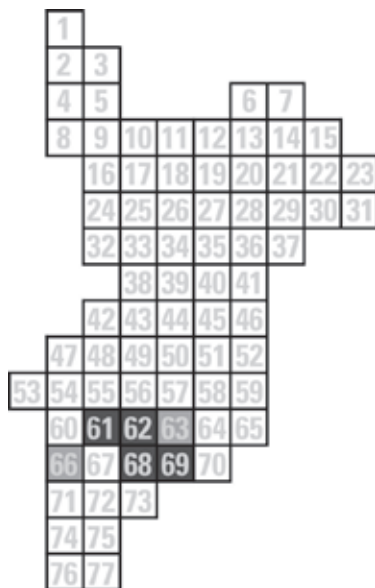
【県内の状況】清澄山系、高岩山系と鋸山に分布する。園芸的採取が著しく、個体数が減少している。

【保護対策】生育環境を良好に維持する。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】新千植誌 1975：388／Yamazaki, T. 1996 A revision of the Genus *Rhododendron* in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin. p.14-18／千植誌 2003：432, 419

【写真】2001.4.8 君津市
福田洋

(大場達之／天野誠)



B モロコシソウ サクラソウ科

2009	C
2017	C
2023	B

Lysimachia sikokiana Miq.

【種の特性】常緑多年生草本。湿った照葉樹林あるいはその縁に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、重力散布。カクレミノースダジイ群目。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾。

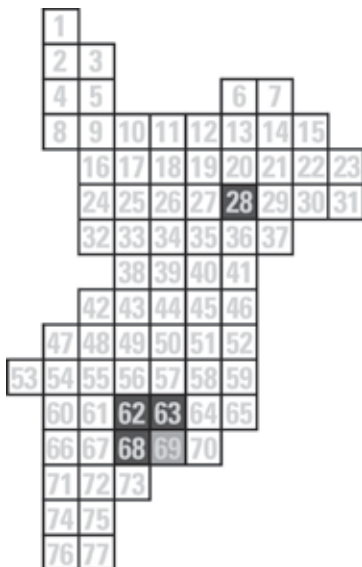
【県内の状況】降水量の多い房総丘陵南東部に限って見られる。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：436, 439

【写真】1991.7.3 鴨川市 CBM BS-87000

(大場達之／天野誠)



B コイケマ キョウチクトウ科

2009	C
2017	C
2023	B

Cynanchum wilfordi Hemsl.

【種の特性】つる性の多年生草本。葉は単葉で対生。花は7～8月に咲き淡黄緑色。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】印西市から館山市にかけて全県的に分布するが、山地には少ない。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：464, 455

【写真】1997.7.1 酒々井町 CBM BS-170822

(大場達之／天野誠)



B サワリソウ リンドウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Ancystrocarya japonica Maxim.

【種の特性】 高さ 30 ～ 50cm の夏緑の多年生草本。深い沢の湿った林の林縁に生える。根は肥大し、数本の茎を立てる。葉は茎の中部にまとまってつく。茎は斜上し、円筒形。葉は互生、長楕円形で、鋭頭で、基部は楔形、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花序は分枝しない。花冠は白色、径約 7 mm で、花筒は長い。果実は白くて光沢のある小堅果で、ウシの角形。虫媒で重力散布。ブナ群綱。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

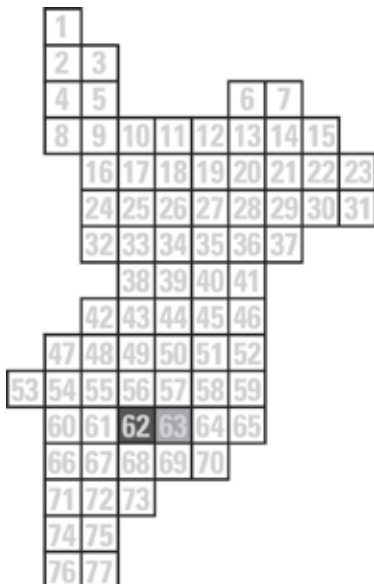
【県内の状況】 君津市、市原市、大多喜町からの報告がある。

【保護対策】 生育環境は沢沿いに限定され、個体数が極めて限られているので、生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：472, 482 / 千植写真 2005：353.

【写真】 2000 大多喜町 平田和弘

(大場達之／天野 誠 追補)



B ホソバリンドウ リンドウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Gentiana scabra Bunge var. *buergeri* Maxim. f. *stenophylla* (H.Hara) Ohwi

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。リンドウに似ているが葉が細く、茎は直立し湿原に生える。花は 9 ～ 11 月。ヨシ群綱。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 九十九里平野の湿地に見られる。

【保護対策】 湿地の保全。観賞用などでの採集を防止する。

【文献】 千植誌 2003：451, 444

【写真】 2008.10.31 成東・東金食虫植物群落 能勢正代

(大場達之／天野誠)



B ハルリンドウ リンドウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Gentiana thunbergii (G.Don) Griseb.

【種の特性】二年生草本。葉は単葉で対生し根生葉はロゼット状に集まりつく。花は4～5月。青紫色。虫媒で風散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

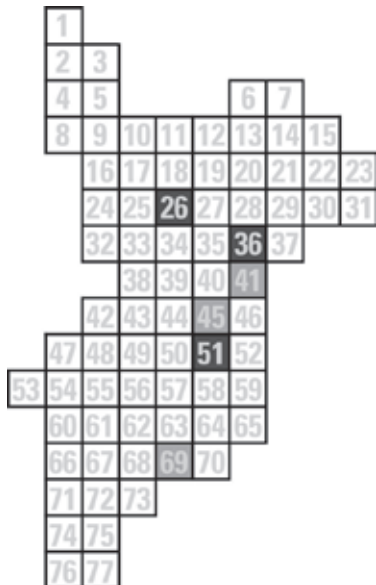
【県内の状況】九十九里平野と習志野市に記録されているが、すでに失われた産地が多い。

【保護対策】湿地の保存。観賞用などでの採集を防ぐ。

【文献】千植誌 2003：452, 444

【写真】2008.4.18 成東・東金食虫植物群落
能勢正代

(大場達之／天野誠)



B イヌセンブリ リンドウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Swertia diluta (Turcz.) Benth. & Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara

【種の特性】一～二年生草本。葉は単葉で対生、やや幅広くて先端が丸みを帯びる。虫媒で風散布。湿地に生える。センブリによく似ているが全体に苦みがない。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】九十九里浜平野の長生村、山武市、茂原市などから多くの標本が採集されているほか、千葉市、習志野市、柏市、佐原市、富里市、八街市などからの記録もある。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：384./ 新千植誌 2003：452, 453

【写真】2001 山武市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B ムラサキセンブリ リンドウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Swertia pseudochinensis H.Hara

【種の特性】 一〜二年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。センブリに似て全体に紫色が強く、花も紫色、葉は細く尖り、茎や花柄に細突起がある（センブリは平滑）。[Th] やや開けた草地に生える。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール。

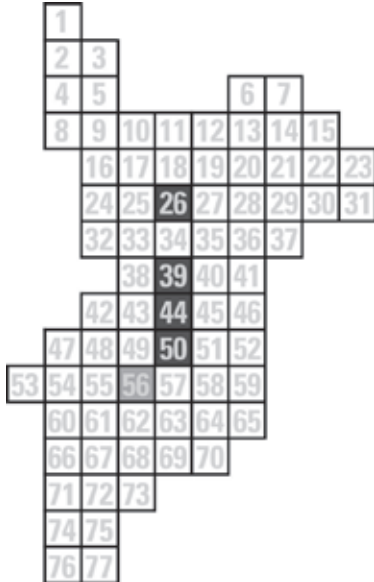
【県内の状況】 市原市、八街市の標本のほか、八千代市、松戸市、習志野市、柏市、山武市からの記録もあるが普通には見られない。

【保護対策】 生育地の草地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：384 / 千植誌 2003：452, 453

【写真】 2017.11.12 東京都植栽 石川和宏

(大場達之／天野誠)



B ヒメナエ マチン科

2009	B
2017	B
2023	B

Mitrasacme indica Wight

【種の特性】 小形の一年生草本。茎は細く立ち上がり高さ5〜15 cmで少数の枝がある。葉は単葉で対生し披針形から広線形。花は8〜10月。白色で花被片は4個。虫媒で風散布。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、熱帯アジア、オーストラリア

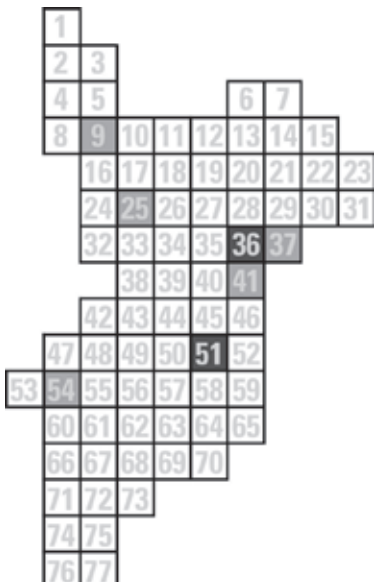
【県内の状況】 湿地の小裸地などに見られ九十九里平野などに記録があるが、現在は少ない。

【保護対策】 湿地の保全。

【文献】 千植誌 2003：451, 443

【写真】 2000 山武市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B アイナエ マチン科

2009	B
2017	C
2023	B

Mitrasacme pygmaea R.Br.

【種の特性】 小形の一年生草本で高さ 5 ～ 15 cm。葉は単葉で対生し茎の下部に集まり、卵形～長楕円形。花は 8 ～ 10 月。枝の先に 3 ～ 5 個の花が散形状につき、白色で花被片は 4 裂。虫媒で風散布。ハタガヤイトハナビテンツキ群綱。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

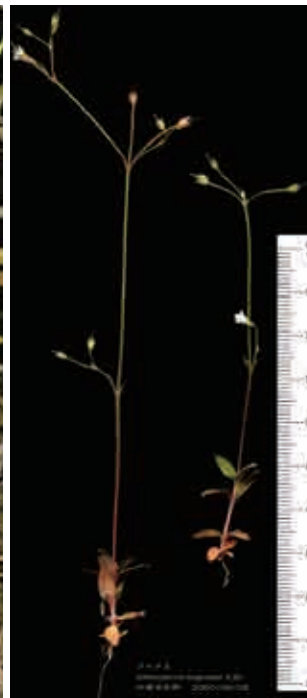
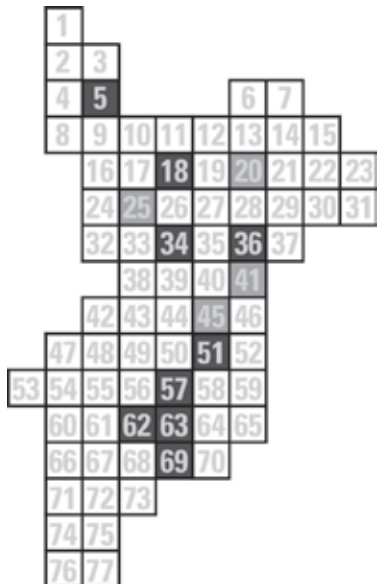
【県内の状況】 アイナエより乾いた裸地に生え、造成地、墓地などに生えることもある。分布は広いが普通ではない。

【保護対策】 一年草の保護方策を検討する必要がある。

【文献】 千植誌 2003：451, 443

【写真】 2000.9.5 印西市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B カワラマツバ アカネ科

2009	C
2017	A
2023	B

Galium verum L. var. *asiaticum* Nakai f. *nikkoense* (Nakai) Ohwi

【種の特性】 多年生草本。日当たりの良い乾いた土手や草地に生える。葉は単葉で輪生。茎は刺がなく細毛を密生する。虫媒で、風散布。[H] ススキ群目。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 茂原市、柏市、市原市に記録がある。近年は報告がない。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 谷城 (2003)：アカネ科 千葉県植物誌 477

【写真】 1991.6.7 市原市 標本：CBM BS-50530

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B カギカズラ アカネ科

2009	B
2017	B
2023	B

Uncaria rhynchophylla (Miq.) Miq.

【種の特性】常緑藤本。葉は単葉で対生。葉の脇に湾曲した刺をもつ。虫媒で風散布。ノイバラ群綱。[M]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】清澄山系と長南町に分布する。個体数は少ない。

【保護対策】生育地を保護することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：465／谷城・森 2007 内浦山自然環境保全地域の植物相・千葉県自然環境調査報告書：23-40. 千葉県環境部自然保護課

【写真】2008.8.25 清澄山 谷城勝弘

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B ヤマトウバナ シソ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clinopodium multicaule (Maxim.) Kuntze

【種の特性】中形の多年生草本。日陰の林縁あるいは林床に生える。

根際から基部が斜上する茎を数本だす。茎は高さ 10～25 cm。葉は対生し狭卵形で粗い鋸歯がある。花は 6～9 月。茎の先に集まって咲き、花冠は白色で長さ 7～9 mm。虫媒で風散。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】1933 年に君津市で採集された標本があり、2007 年に高宕山で再発見された。清澄山の記録もあるが、標本は確認できない。

【保護対策】自生地の環境を保つ。

【文献】大野啓一 2008 高宕山でヤマトウバナを採集．千植誌資料 24：219-220

【写真】2007 高宕山 大野啓一

(大場達之／大野誠)



B フトボナギナタコウジュ シソ科

2009	
2017	B
2023	B

Elsholtzia nipponica Ohwi

【種の特性】 小型の多年生草本。高さは30cm～60cmになる。葉は長い葉柄を持ち、葉身は卵形で3cm～8cm、揃った鋸歯がある。花序は直立する。花は片側に偏り、裏には偏円形の苞がある。虫媒で、重力散布。花期は、10月～11月。落葉樹林の道端に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 南房総市で1966年11月6日に採集された標本（CBM BS-12061）と君津市で2009年10月25日に採集された標本（CBM BS-287231）と同市で2000年11月2日に採集された標本（CBM BS-269693）と同市で2003年11月15日に採集された標本（CBM BS-205258）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:376 / 千植誌 2003:503

【写真】 2001.10.26 君津市 CBM BS-269693

(天野誠)



B ミズネコノオ シソ科

2009	B
2017	C
2023	B

Eusteralis stellata (Lour.) Murata

【種の特性】 一年生草本。葉は細長く単葉で輪生。虫媒で水散布。茎の上部で枝分かれする。水田に生える。[Th] タウコギ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、東南アジア。

【県内の状況】 我孫子市、多古町、市原市、茂原市、富里市などで採集されているが稀である。また以前から稀であった。自生するところでは群生することが多い。特別な環境要因が必要なものか、あるいは種子分散の能力が限られているものであろう。

【保護対策】 生育地の水田を従前通りに維持管理することが望ましい。

【文献】 伊藤至 1967 ミズネコノオを下総に採集。植物採集ニュース 29:38 / 新千植誌 1975:376. / 千植誌 2003:502,498

【写真】 1990.8.18 多古町 標本: CBM BS-83567

(大場達之/天野誠)

